

徳川幕府家譜

巻

又 4

2426

/



門入伊4
番 2426
巻 1

德川
府幕
家譜

乾

御家譜



清和天皇

御諱惟仁 文德第四皇子

母公者皇太后明子号深殿后 攝政大政大臣忠仁公

姬眉嘉祥三庚午年三月 御誕生天安_二寅年

十二月九日九歲_三而 御即位_{是奉朝童} 貞觀十八丙申年

十一月廿九日太子 陽成院 御讓位治世十八年元慶

三己亥年 御落 同四庚子年十二月

崩御 御室筭三拾一歲葬栗田山置於骨

水尾天皇卜奉号

貞純親王

母堂者中原大捕神依伯棟貞王息女貞觀十六
甲午年三月十三日誕生延喜十六丙子年五月七日
薨御四拾三歲

嫡男

大宰大弼經基

鎮守府將軍參議正四位上總人

母堂者右大臣源能有息女寬平二庚戌年二月
誕生天慶年中勅有平將門下總國而戰足ヲ
誅罰ノ後任鎮守府將軍天德二戊午年六月
十五日始源氏之姓ヲ賜同年十二月十日薨去六十九歲

嫡男
滿仲

多田新發意藏人頭武藏守
正四位下鎮守府將軍

母堂者橘繁子息女延喜十一甲午年四月十日誕生
始而蒙武將寬和二丙戌年八月十九日出家法号
滿慶長德三丁酉年八月廿七日卒八十八歲元祿
九丙子年九月攝州多田廟造之賜正一位

嫡男

賴光

攝津守從四位下鎮守府將軍

治安元辛酉年七月廿二日卒去

三男

賴信

河内守從四位下鎮守府將軍

母堂者大納言元方息女安和元戊辰年土月

廿九日誕生長元二己巳年九月二日

勅命を蒙り於常州平忠常親翌辛未年

四月廿八日家忠常降余治永義三戊子年九月

朔日卒去八十一歳

嫡男

頼義

伊豫守

從四位下

鎮守府將軍

母堂者修理命婦正曆五甲午年四月八日誕生

永義五庚寅年勅命を仍而安倍に責任追討之

為奥州下向彼下戰事十三年天長五丁酉年

九月十七日尉屋川に合戦に大利を得て遂に責任

宗任経清を誅次首を斬事熱く方八十各

其耳鼻以取に一室に納り佛舎を建立し

耳納寺と号し永保二壬戌年三月二日卒去八十八歳

嫡男

義家

出羽守

陸奥守

從四位下

鎮守府將軍

母堂者上野公平直方女長久元庚辰年八月

十五日誕生永義元丙戌年五月十日於八幡社元服

号八幡太郎天長五丁酉年父頼義と共に奥平

下り責任を政討能強りとす凶徒恐怖は

于时十八歳 義曆 三己未年八月土佐守國房
作俊与重家と誅伐以寛治六壬申年清原
武衡同家衡誅伐以爲奥州、登向し戦挑し
三年遂に金沢ノ柵ヲ陷し武衡ヲ擒し家衡ヲ
殺す 長治二己酉年七月仍病卒出家 義仁
号以同年八月十八日卒去 五十六歳

三男
義成 國

是利式部大輔 從五位 母者東宮 有徳女
是利上総公敦基カ 弟トシテ下野國是利 義成
成法中礼ヲ撰テ武家ノ法式ヲ定ム 仁平三年
卒去

三月十六日出家 久壽二己亥年六月廿六日卒去

嫡男
義重

新田大炊女 法名上西

母堂者上野公敦基女上野國寺尾城主始ノ号

新田 新田 徳川 里見 山名 樋口 額田

世良田トシ元祖也 建保二甲戌年正月十四日卒去

六十八歳 新田庄大田郷、葵彼寺ヲ義重山ト号

法名大光院殿義重方西居士 東海道十五ノ国ノ

管領 成治義年中、頼朝ハ東兵ヲ起討是ヲ

補佐ノ功有故、慶長十六辛亥年三月廿二日

家康公仍 御執奏從四位下賜
大光院殿贈鎮守府將軍源義重方西大禪定門

嫡男

義兼

新田九郎

次男

義康

從五位下次郎判官号足利 下野國領次

保元二丁丑年五月廿九日卒 号平 武 姓 主 部 号

四男

義重

徳川四郎

封 成 土 西

義季

上野國新田庄世良田 郷徳川村 住 故 徳川 以

為称号 十文治四戊申年 頼朝箱根条詣建久

三十五年十二月同六乙卯年三月丙午度 上洛 時

騎馬并隨身入侍 尊 謙 亮 兼 高 相 不 直 氏

徳川四郎太郎 下野守

頼有

世良田四郎

從五位下

新田三河前司

頼氏

將軍頼嗣及宗尊親王 奉任

世良田次郎

法名浄真

教氏

宗尊 惟康 二代之將軍、奉仕

家時

世良田又次郎

久明 守邦 二代之將軍、奉仕上而新田庄世良田村并
德川村江田村上中下ヲ領ス

満義

世良田次郎

守邦 將軍、奉仕執権北條相模守高時不道、
陳兼元正慶二癸酉年五月鎌倉ヲ去リ新田
義貞ニ去リテ義兵ヲスル

政義

世良田太郎

父下共軍忠ヲ尽シテ義貞義興義宗等子カス新田
没テ後浪ノトナリ德川村ニ幽居ス

親

太子

德川左衛門尉

法名用全

鎌倉管領足利満氏江被召出奉領安堵ス

有親

德川丸京亮

長阿弥

家督相續シテ奉仕ス斯ル所永享年中京都
將軍義教ト管領持氏ト不和有テ合戦ニ及

持氏苦戰有ケレ共不叶シテ敗北也此時有親者
嫡子足利太郎義久ニ隨テ御所ヲ守門外ニ
敵ヲ追出ス此間、義久裏門ヨリ扇谷江落行玉ヲ
江戸三浦葛西ニ輩押詰テ終、生捕ル有親
父子ハ圍テ破テ領知徳川ニ落行、塾居シテ
鎌倉ノ様子ヲ窺フ處、持氏、永享土己未年
二月十日御自害有京都ヨリ東國ノ制法ヲ改メ
殊ニ新田ノ末葉ハ草ヲワケ搜求テノ風聞ナレハ
俗躰ニ中、忍ビ難ク相州藤澤道場清淨光寺ニ
赴キ剃髮シテ長阿弥徳阿弥祐阿弥ト号ス斯レモ

東國ノ居住成難クハ思勞シテ居タリ爰、林
藤助光正ト云者有持氏ニ奉仕シテ長阿弥断金ニ
友成シカ永享九丁巳年、讒言ヨリ持氏ニ勘氣ヲ
信州ニ赴テ幽居ニシテ是ヲ頼テ永享土己未年
十二月廿七日長阿弥父子信州光正カ宅ニ尋至光正
甚喜、往事ヲ語ル月廻シテ共可饗應珍物ナレ
光正雪中ヲモイトス兔ヲ狩シテ一足ヲ得正月
元旦是ヲ以饗應ス徳川家ニテ兔ノ御吸物ヲ以
元日ノ御嘉例トナル事是ヨリ始三月雪消テ長阿弥
父子信州ヲ出テ三州ニ赴キ坂井郷居住ス長阿弥無

幾程卒去 シ玉ヒケリ

親氏

德川次郎三郎 德阿弥 松平太郎左衛門

參州坂井御、年月ヲ送ル處同所、庄官五郎左衛門

還俗ヲ勸メ智養子トシテ一ツヲ渡ス妻女嘉吉

元壬酉年二月八日男子ヲ生ム坂井小五郎親清ト号

後改坂井ヲ為酒井 妻女ハ無程病死シテ親氏寡居スル處

松平太郎左衛門信重ト云庄官親氏、谷ヲ見テ

一女ヲ嫁セシメ家督ヲ讓度望ム親氏は是ニ諾シテ

坂井御ハ子息小五郎ニ讓リ其身ハ松平御ト至ル

其近御隣村ノ富人ト交リテ厚ウレ次子ノ類業廣ク

國中ニ充滿シテリ其頃ハ足利義勝將軍之

治世也然共去ルモ加吉元辛酉年六月廿四日御父

左大臣義教將軍、赤松入道滿祐、為被殺

玉ニ義勝僅ハ歳ノ時管領細川畠山大内等

義勝ヲ取立主君トシテ赤松カ一類ヲ誅戮有

天下泰平ニ似タリト云氏猶四夷ハ静成ヲカス刺

義勝十歳ノ時落馬シテ薨去有シカハ其才義成ヲ

取立主君トシ宝徳元己巳年四月十六日十五歳ニ而

元服有同月廿九日征夷大將軍ニ任セラレケレトモ

世上、危キ事ハ無言斗 天下擾乱ス享徳ニ癸酉年三月 從一位権大納言、叙任義成ヲ義政ト改ム 東山殿ト申者是也此 治世天下動乱シテ強ハ弱ヲ掠取り主ヲ殺シ地頭ヲ討其領ヲ大集取兵乱ノ最中ニハ親氏一類縁者ヲ語ラシ一揆ヲ企近村隣里ヲ討被切取武威ヲ國中フルイシカハ大略下知ニ随ヒケリ應仁丁亥年四月廿日六十三歳ニテ卒去松平 高月院江焚法名 芳樹院殿俊山徳翁居士

恭親

祐阿弥 松平大郎左衛門 世畠三河守

實ハ舍弟也遺言、因テ仍其家ヲ治ム 恭親元末大智、シテ益其苗ヲ 爰其頃洞院大納言藤原実照卿勅勅ヲ蒙リ三州ニ配セラレ玉ト名ヲ恭親常ニ是ヲ厚ク勞リ余ヲセ玉フ然ル所間モナク勅免有テ飯洛有刺内大臣ニ任セラレ此節於京都 恭親、又テ御取成有テ三州 代職ニ補セラレテ從五位下ニ河守ノ口 宣テ恭親、被成下三州大略此威風、順、是、仍初而城ヲ岩津、筑末、伝克ヲ筑末又是跡、城ヲ筑末、居城トシ近々ト日夜

因二書合戰有_レ數ヶ所ヲ切取_レ文明_三甲辰年
九月廿三日卒去_二州高月院_一葬_レ

法名 良禪院政秀岸依念居士

信廣

松平左衛門

信克

世良田三郎

和泉守

月堂入道

實ハ親氏ノ子也家督ヲ継_テ岩津_一居_レ任_シ
近國ト合戰止事_{ナシ}男女子_ノ幼_ク四十八人或ハ
聲_ニ去_レ嫁_レ送_リ一族縁者_ハ孫克滿_ス文明十一

縣

己亥年七月安祥城ヲ取_テ下_ニ洗_テ謀_ヲ搆_ラセ_リ

其故ヲ尋_ルル_ニ安祥ノ西野_ニ敵_ノ衆_ヲ催_サシ_テ城中

是_ヲ謀_トハシ_ラス大半_ノ城_ヲ拂_ツテ_ハ踊_見多_ク出_{タリ}

于時信克打立_シ玉_ヲ処_ニ酒井左衛門尉氏忠益_ニ

水葵ノ葉_ヲ行_ハ如_ク罌_ノ其_ノ葉_ノ上_ニ闘_テ蛇_カ栗_ノ

昆布_ヲノセ_テ今日_ニ御合戰_ハ討_テ勝_テ悦_ブ曲_ヲ祝_ス

安祥_ハ改_メ玉_ノ城中_ニ皆_テ謀_ハ落_テ踊_見出_{タリ}

僅_ニ老人_ノ女童_ヲ殘_リ居_テハ防_クキ術_ナク_テ城_ヲ忽_チ

落_レケ_リ飯陣_有氏忠_カ詞_ヲ稱_美アリ_テ則_チ

三葵_ヲ以_テ酒井家紋_ト可_ク致_シ由_テ被_テ仰_ケル_カ其_ノ後_ニ

御吉例也トテ 御家ノ 御紋ト被成 似タリ成トテ
酸漿ヲ以酒井ノ紋ニ定ル是ヨリ合戦毎々利運シテ
三州三分一ヲ從ハ領シ玉フ長享二戊申年七月
廿二日卒去三州岩津ノ一寺ヲ建立有信光明寺ト
号ス淨土宗 則寺ニ葬

法名 崇兵院殿月堂信光大禪定門

守家 松平九京亮 和泉守 竹谷元祖

親忠 德川三郎三郎 修理亮 右京亮

岩津ノ居城ト後ニ安祥城ト移リ織田家今川家ト

合戦ノ度ハ終ニ一村ト不被取結勾敵地ニ奪集

取事 數度也延徳三辛亥年二月 隱居剃髮シテ

西忠とい小又延徳年中 中井田郎合戦ニ討死シ

軍カ靈魂時在ニ次大勢呼喚聲或ハ恠異多カリ

此レハ大樹寺ニ住持ト被仰テ十夜念佛具行アリ

是ヨリ恠異呼喚ノ聲モ止ルカヤ其證久今ニ

彼寺ノ宝物ト成テ又井田野ニ魂場野ト改メ

右討死シ輩ノ死骸ヲ埋テ 御吊有リ今世人

塚ト唱ふる山是ナリ 明應九庚申年八月十日卒去

大樹寺小葬

法名 松安院殿大胤西忠大禪定門

親長

岩津太郎

修理亮

兼元

大給二郎

松平原二郎

大給元祖也

長親

初忠次

徳川二郎三郎

藏人 出雲守

安祥小居城に其頃駿遠兩國を守護今川五郎氏親三州を平し入る人と攻付事一度も也或時

伊勢新九郎長氏後小北條早雲武者執行し

多之駿品小至りて大將として二万餘兵と差添

親長に居城岩津を攻不成就兵五百餘兵勇戦を以

敵多勢小仍甚危し千時長親八百兵を引率して

矢川の上を瀬より後法を敵を追明次其外

軍謀がよくなりて織田今川に領教を所ときり

一因大才属に天文十三年甲辰年八月廿一日卒去七十二歳

大樹寺小葬
法名 掉舟院殿一閑道関大居士

信忠

徳川三郎三郎 丸近 藏人 道忠道

家督を継 一族の棟梁多しといへ其志甚無常也
依之家臣侍僕とて是とらとみ 一類縁者も大半
離れ小多し 僅小安祥 一城を守 干時老臣 酒井
大久保本多 榊原等密談して大溪に下を告げ無程
隠居させ申 清康主とて家督に次享禄四年
卯年 七月 廿七日於大溪卒去四十二歳 大樹寺に葬れ
法名 安栖院殿 恭孝道 忠大居士

清康

徳川三郎三郎

永正七庚午年 安祥城を生ま大永二壬午年
御家督干時十三歳 御年より長高く力強其心
寛に英雄也 同五乙酉年八月 松平暉正右衛門昌安力
籠^ル 畠崎城を競つ 遂に昌安力と合テ 愛せとて
清康主に嫁し 畠崎城を進らば 少しに
御威勢 西三河に輝く 昌安の女嬖姫御く 離別在
其後青木筑後守真景の女を娶り 其女是 廣忠御の
母公也 此室病死以後 水野右衛門大夫忠正 後家督を
きし 一あるを以て 跡へた 少し 是 廣忠御の御本妻
女也 忠政方より 一女を生 是 廣忠御の御本妻

家康公の御母公也然れハ廣忠卿と大御方ハ
世俗小行あひ兄弟多し同年今川義元と
和睦有く共ニ織田を攻討んと談に享禄三庚寅年
野呂岩崎の城攻忽ニ落城同年熊谷備中守々
籙る宇理の城攻忽落城此時伯父親盛討死
天文元壬辰年 牧野傳藏々籠ル 吉田の城攻落城
同年戸田彈正憲光々籠ル 田原の城攻戸田降年
此時武田信虎と和睦同二癸巳年三州岩津而
三宅右衛門と挑戦を御利運同年信州兵三州へ
来り戦ふ御味方大利有く敵首を得る事十余級

是より益御威風震々諸士招かさば小同
四し未年十二月兵を尾州小發し森山小陣ト云々
此時三州より告ぐい小伯父内膳信定病称ト云々
上野の城小籠城田家へ志を通し逆意し由
住近れ仍し父子兄弟相別き陣を分者兄弟を
疑ひ子に父を危ふむ此時より御譜代の忠臣安部
大藏少輔正澄々威勢をト云々補む者正澄も織田家へ
内通有由を清康主に語り此風説既ト云々
正澄是を聞て嫡子弥七郎正豊を閑所ト云々呼てい小
我罪なくして惣説の謳歌小於右左様々不義

夢聊無いされ、此事御尋有人小陳謝し
為小一談の訴状并心替不仕旨一通子起請と
午五の裏小認め置多れも免角し作し
若不被還御詮議御刑罰小預らハ汝大久保本等
よりして申談仕無 小ても不儀の名とさほふ小
相斗ハ是も誠の至孝を教へんと庭訓を残りく
訴状紀清元小渡一ける流七郎是を諾して陣屋小
飯りぬれ系ハ庇の舍人阿やまて清祕苑の清馬と
取放し多し清康も御出さる早く捕へよ
逃しをみよや清下知を流七郎も又流七郎と

心得く清康主の御後小廻り村心カ作り二尺七寸の刀と
抜打小斬奉は植村新六郎末座小居合飛かつく
少も不透弥七郎と切ふせ忽主君の敵と取此處小
衆して織田信秀ハ伊田の々小發して競ひかた
然れとも御味方の勇士も命を抛く是ときゆか
織田の兵多く討れ残兵引退く信定ハ上野の城、る
此始終を聞此上ハ自然と景崎の主なりんとも御隠居
長親主ハ経薄一老臣共小厚くちなり俄小丁寧し
様子借一よ十倍せし儲清康君御逝去の日限て
天文四未年二月吾なく御死骸無障引取

大樹寺小築の御幼年二十六歳

法名善徳院殿清叟道府大居士

御清家清家人三譜代より安祥山中是清此
三所より奉仕せし士の筋を云親忠主より
法康主迄四代安祥内在城に間奉仕し其筋を
安祥御譜代より其後清康主山中是崎を
清取より其時の士を山中乃是清御譜代と

廣忠卿

徳川二郎三郎

御母公者青木筑後守貞景女

御室者水野右衛門左衛門忠政女

家康公清母公後、大御方様下稱入

右、御方御離縁以後平原行い至正次女右方死去以後

戸田彈正少弼憲光女

大永六丙戌年御誕生御童名仙千代又仙松

天文四乙未年清康主横死し虚小乗て内膳信定

横領と巧む大御隠居為す子多れも信定心を

欠され因中の制法より大略信定次第なり自ら

権威強くなり日増し我意增長し同六年以ハ

尾崎の所領とも悉押領し其譜代を引付たり
然る後、何卒廣忠を殺害し心して終り世を知らんと
巧む依之天文八乙亥年 安部大藏少輔むそ かり
勢州神戸へ御供申 中伯母 智吉良持廣と頼み
彼地小坐居せしむ 正月十日 元服加冠ハ
吉良持廣則一字と進し 徳川二郎 郎廣忠下
号以理髪ハ安部正沈勤し 同年 内飯国事と
今川義元に頼む 同年九月吉良持廣病死後
子息吉時心変メ織田家へ一味に依之 正澄
廣忠々とは供申 伊勢を忍び出て三州へ赴き

長篠御民を頼み暫蟄居有此所より正澄い志けり
駿州へ来義元を頼依之又遠州掛塚へ御越有
鍛冶五郎作ら宅小御止宿夫より駿而赴き義元
方翌年秋迄御止同九庚子年八月義元斗と
して三州 呂城へ移し 中頃此時より御譜代衆
来り 御帰城し謀を談り同土壬寅年五月
晦日尾崎に御飯城あり 此時信孝康孝老臣ト
心を合せ城門を扱カせて飯城させ申し同六月朔日
義元へ以早馬尾崎を採取由注進同月八日信定
大御隠居と頼降来同十四乙巳年三月廿日御近臣

岩松八弥御側へ出しかつ儀なり村正し
照差を扱て廣忠主を突しか突損して御服
中る早速御服差を扱き多まは八弥迹走は
折節植村新六郎清門にて待合刀を扱て間も
なく無手と組互小沙汰有到力も組合て堀の中へ
落入未勝負不見處小十郎三郎康孝行掛り
鎧と取り子細を問植村く小大事の敵なりは
放ましくは音とも小突多まくと云康孝撰り
突りて八弥を突殺は此節植村か言葉も各
称美は御二代村正カ作し及よて凶事あり又二度共
植村新六郎出合て忠と尽寄なり事也同年於

安祥繩手尾州兵と御合戦御利運同十六
丁未年九月三卯渡理川原と三木藏人信孝と
大戦有本多平八郎忠高勇と震つて敵陣を
破取討取首百八指級同年織田信秀大軍とて
攻来は風聞小依く今川へ加勢を乞ふ小
人質竹千代君家康公を送り多はんと議せ
其事委細
家康公御年譜記同十七戌申年三月十九日駿州
小豆坂と織田勢と對陣今川家と援兵
貳万餘来て太子御利運同四月朔日松平権兵衛
重弘兄弟と笠川三州山中の城を攻落り多は小

同月三州胃山之藏人信孝と御對陣即日
菅生川原にて信孝流矢小中つゝ死し残兵悉
敗北に同十八己酉年二月廿日織田家と對陣
大利有く織田三郎五郎信廣と搦まを依之
尾州より初と乞

竹千代君と三州へ皈し奉り信廣と尾州へ皈し
同月廿六日先年の約を違へ以再為人質

竹千代君と駿州今川へ送るせぬ同年三月六日
御逝去二十四歳大樹寺に葬る

御法名 慈光院殿應政道幹大居士

瑞雲院殿

慶長十六年辛亥年三月廿日

家康公依御執奏

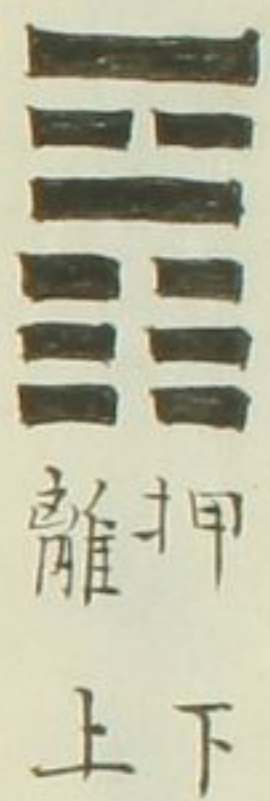
大樹寺殿贈重相從二位

家康公

秀吉時代伊豆相模武藏上総下総上野御領

九斗百四拾万弍千石

御本卦 晉



晉 康侯用錫馬蕃庶晝日三接

彖曰晉進也明出地上順而麗乎大明柔進

上行是以康侯用錫馬蕃庶晝日三接

彖曰明出地上晉君子以自照明德六衆允悔之

有順上而明之志而衆允從之

彖曰衆允之忠上行也

右晉八順之方大明三付德名卦也

家康公御一生未程大吉明德盛治國平

天下萬一歲卦云

人王五十六代清和天皇二十五代後胤新田源氏清康

孫廣忠嫡男武陽將軍家元祖後奈良院

御宇天文土壬寅年三月廿六日於三州岳崎

御誕生御童名 竹千代君御墓目安部大藏少輔

正澄御篋刀役大久保五郎九郎尉忠勝役

大御方様三州鳳来寺峯之華師に男子出生

御念願有而通夜被成夜に靈夢、十二神の内

真達羅大将と御神入させぬと御覽あり
其月と御懐胎有而御誕生し御男子
家康公也

天文十六丁未歲 御六歲 土月駿州今川義元一人質
赴カシムル處三州田原、城主戸田彈正次彌憲先カ
嫡子五郎政先奪取奉く織田備後守信秀へ
送ル信秀悦テ伊勢勢田、加藤番書預置
同十八巳酉年 御八歲 二月織田三郎五郎信廣一人質
替テ御飯城同月廿六日先年約と難変由而
今川義元一人質、御赴義元と比ハ駿州

宮崎嶽、新館を構へ御旁、壬申ノ弘治二丙辰年
御五歲 正月十五日義元、前々御元服則一字と
進せられて徳川二郎三郎元信ト申奉ル加冠ハ
今川上総ハ義元理髮ハ義元ノ妹智 関口
刑部少輔親永也則親永ノ女ヲ以御縁談成ル
同三月五日義元ノ斗トシテ畠崎、御飯城同三
丁巳年 御十六歲 四月松平藏人元康ト改元是ハ
御祖父清康主、武勇ヲ古老ノ物語、被
引召床鋪 思召テ康ノ字ヲ付セリ永録元成
午年 御十七歲 御初陣、三州寺部城主鈴木日向守

重教ヲ攻多^ク御利運日向守降来今川義元
感て太刀一腰給小同年伊保廣瀬奉母梅坪
四所と攻討女小同二己未年御十八歳御叔父水野
下野守俊光卜御對陣同三庚申年御十九歳五月
廿三日出陣本丸に御移同月義元共尾州に
御出陣同月十八日小谷城主久松佐渡守定俊方に
被仰越智多郎阿古屋より大御方様御對顔
此時定俊三子に御兄弟に御名乗有而松平
御祿号に被下同日の夜今川に巨鷲殿長昭力
守城大高兵糧乏之に世氏敵陣中たれに養を

送^リし^キり^し此時^に御^利運^日向^守降^来
元康公信長に軍士を押し城中に兵糧三十俵入給
其任嚴重多^ク見^て尾州兵是^を不^叶
今以大高兵糧入^上申^上此事也同月十九日於桶狭間
今川義元討死也此時元康公鶴殿に代^り
大高城に御座有^り水野信元より浅井六助を以
告^り云^ふ近邊皆尾州兵に^くま^りふ^さく大高一城敵中
残り後援し味方なき急^ぎ御飯圍可然由也
元康公被仰^り信元ハ叔父なり^し敵^を虚^実
難斗^と浅井と擒^と味方^に告^と

御関廿一日曉天浅井を粟内者と被成静、取拂ひ
多し、同年廣瀬伊部未所、御合戦いづれも
御利運同四年酉年 御三歲 信長、兵士板倉
渾正重定カ籠川中、治城を攻落せし、信長多
以下勝馬佐光和法と乞則、譲りたりし、先佐元十
御和法多し、和信長と交和成同今方、移城
吉田赤坂御由、御合戦何れも、御利運同年
酒井雅樂介親正、数年、衆、抽、忠、勤、故、三、州、
西尾城を賜、是御家臣、城を賜、了、始也、同年
今川將、糟屋宗益カ籠、長澤を、責、落、た、ま、し、

同五年戌年 御三歲 今川氏真、一、万、三、千、兵、三、州、奉、
元康公、三、千、兵、被、追、立、駿、州、に、逃、入、敵、首、を、得、事、
千、四、百、餘、級、同、年、鷲、殿、長、久、長、昭、カ、籠、川、三、州、
西、尾、城、を、攻、落、多、し、長、昭、カ、二、子、ヲ、擄、ト、ス、後、
築、小、殿、信、康、ヲ、後、州、に、御、座、有、ト、人、質、替、ナ、ル、同、
九、月、廿、九、日、依、服、八、幡、ヲ、攻、多、し、小、同、二、連、木、牛、久、保、
小、坂、等、合、戦、同、小、原、肥、前、守、鎮、真、長、沢、小、出、張、
御、出、馬、有、リ、忽、御、利、運、同、十、月、三、州、一、向、宗、門、
一、揆、シ、士、呂、上、野、野、寺、三、所、集、ル、御、家、人、八、百、餘、人、
元康公、肯、キ、是、ハ、予、ニ、者、百、五、十、餘、人、同、六、癸、亥、年、

御三十二歳

宗門一揆下 御合戦同年七月六日

家康下 御改号同七月十年 御三十三歳 二月一揆

悉降来同年吉田城責一宮後法以時小原

肥前守實鎮和之乞之駿州、既之是之三州一國

御子入同八乙丑年 御三十四歳 一國、制法と被定

本多作左衛門重次高力権左衛門直高大將三郎之侍

康系を以三奉行とし給う同九月寅年 御三十五歳

二月廿九日從五位下之河守同十月卯年 御三十六歳 廿年ハ

安夏同十月辰年 御三十七歳 正月十日江京右大臣同八月

信長江割算作城主依之本在系矣兼禎之攻

依援之乞松平勘定部依一ノ首將トシテ一ノ子

餘兵ヲツカハシ同十二月一日今川方カ終ル幸州井伊谷

城責城兵悉降来是ヲ倒テ久能、城主ト不戦シテ

降来ス同月十日武田信玄後州ヲ責取り

家康公ト大井川ヲ堰トシテ一領由約諾ス同十二己

巳年 御三十八歳 正月 朝比奈備中守カ竈ニ挂川ノ

城責 朝比奈能守ヲ戦同三月引間ノ城責

坂川ノ城責同年 山本帶刀、余メ引間ノ御居城ヲ

築ホ多ク引間ノ名不之此之 濱松ト改自是

参遠西國 御子入元禄元年 御三十九歳

濱松へ御移置崎城ハ信康公譲りたふ不同
三月廿日信長朝倉義景を攻討し為メ越前ノ
軍ヲ發ス此時為加勢幸州ヲ御出馬越前ノ山
城ヲ攻落シ金ヶ崎城圍多し小處江北浅井
備前守長政俄敵トナテ信長ノ飯路ヲ遮ル工ハ
信長越前及テ朽木越ラヘテ洛ノ入共時木下
藤吉郎秀吉ヲ朝倉カ押トシテ残シ墨といふ事
甚小勢多し小あつて是ヲ援と素不同六月信長浅井
討として江州ノ發向ハ

家康公モ幸州ヲ御出馬多ク浅井カ援兵浅倉

戦ひし事小浅倉とて万子餘兵

家康公ノ子玄、駐立られた大小敗北信長ノ
先鋒池田恒輝、浅井ノ戦負テ信長陣甚危し時
家康公又士卒ヲ攻討多ク浅井モ敗明ニ討取
首級三子級是世ハ小好川御合戦也同大井川
御巡見ノ時信玄ノ功臣小懸三郎玄衛御味方ニ
小勢ノ兵ヲ見テ約と交シテ討取
家康公地利ヲ見合多ク以級ヲ全一ヲ引取
多クは小是ト武田家トノ和睦敗れり事也
信玄三万餘兵ヲ率テ幸州ノ發向ハ

家康公三八子解云三々勝其後、御出陣此時
本多忠勝三三歳 殿之部勇を顯、同二年未年
御三三歳 正月十日 從在侍從同三壬申年 御三三歳
二月廿二日 佐玄四方餘云 御味方三万四千人餘云
味方三系 御令戰 敗軍三 御陣危き事、
忠死し者三百餘人依之
家康公此恙 御取城天正九年 御三三歳
四月十一日 佐玄病死勝頼跡ヲ継新々 御對陣
同二甲戌年 御三三歳 正月五日 正五位下 同年勝頼卜
所々 御對陣 同三乙亥年 御三三歳 正月十七日

梅雪是を怒り武田を背き 御家、赤梅雪
御味方卜九 依り田中宗翰子第一 甲兵皆降参入
同日勝頼府中、進入是々 甲佐規志離散ス
同日勝頼妻子を携り 田野與天目山、入付順士
僅四十三人 同十日 佐長、各士泚川左近將監一益
川尻肥後を獲去田中、攻入是と圍ふ勝頼
夫婦息信勝老臣彼是口録人自定同軍散メ
信長ト
家康公後河國を 進ら保 同五月 後州加恩為
謝礼江州少云り 多々小 同廿一日 洛中為 御見是也

沸上京其後遇^レ_レ ^レ _レ 同日六月二日明智光秀^カ
多欠小伝長父子於京都自教^キ 于时伝長^{四十一} 此^レ 时^レ
家康公^ハ 堀^ノ 沸旅館^ニ 沸度^ハ 且^ク 方^ニ 此^レ 生^キ 也^ニ
関多^ク 公^ハ 早速^ニ 渡^リ 越^ス 沸^ノ 飯^ノ 坂^ニ 以^テ 時^ニ 沸^ノ 乃^チ 筋^ヲ
諸書^ニ 謬^リ 誠^ニ 八木津川^ニ 沸^ノ 渡^リ 伊賀^ノ 困^ニ 柘^ノ 栲^ノ
沸^ノ 越^ス 四^ノ 朝^ノ 勢^ノ 州^ノ 自^リ 于^リ 角^ノ 兵^ノ 七^ノ 郎^ノ 次^ノ カ^レ 船^ノ 小^ノ 丸^ノ
為^シ 臣^ト 大^ニ 濱^ニ 沸^ノ 悪^ク 足^ニ 是^レ 于^リ 是^レ 濱^ニ 沸^ノ 飯^ノ 坂^ニ 也^ニ
同^ノ 月^ノ 十^ノ 四^ノ 日^ニ 明^ノ 智^ノ 公^ハ 以^テ 征^ス 伐^ス 沸^ノ 出^テ 馬^ノ 交^テ 十^ノ 九^ノ 日^ニ 木^ノ 下^ニ
秀^ノ 吉^ノ 于^リ 死^ニ 脚^ノ 初^ニ 来^ニ 去^リ 十^ノ 三^ノ 日^ニ 於^テ 山^ノ 崎^ニ 表^シ 光^ノ 秀^ノ 于^リ
教^シ 殊^ニ 黨^ト 志^ヲ 退^ス 治^ス 上^ニ 方^ニ 平^ニ 均^ニ 由^テ 告^ス 来^ニ 依^リ 之^ニ

尾州^ノ 沸^ノ 飯^ノ 困^ニ 同^ノ 伝^ノ 長^ノ 其^レ 去^リ 于^リ 甲^ノ 伝^ノ 上^ニ 三^ノ 困^ニ
空^ノ 困^ニ 下^ニ 故^ノ 隣^ノ 困^ニ 諸^ノ 将^ノ 是^レ 于^リ 窺^フ
家^ノ 康^ノ 公^ハ 七^ノ 千^ノ 餘^ノ 兵^ヲ 甲^ノ 州^ニ 以^テ 若^ク 沸^ノ 小^ノ 条^ノ 氏^ノ 在^リ
三^ノ 万^ノ 餘^ノ 兵^ヲ 沸^ノ 對^シ 陣^ス 八^ノ 月^ノ 于^リ 十^ノ 月^ノ 迄^ニ 迫^リ 合^ス 小^ノ 条^ノ 方^ニ
一^ノ 夜^ニ 以^テ 利^ヲ 上^ニ 遂^ニ 和^ス 于^リ 甲^ノ 伝^ノ 二^ノ 困^ニ
家^ノ 康^ノ 公^ハ 捧^テ 上^ニ 野^ノ 下^ニ 困^ヲ 小^ノ 条^ノ 領^セ 下^ニ 約^シ
且^ク 又^ク
家^ノ 康^ノ 公^ハ 婚^セ 尾^ノ 上^ノ 氏^ノ 以^テ 嫁^セ 下^ニ 娶^テ 流^ス
以^テ 时^ニ 甲^ノ 伝^ノ 後^ニ 幸^シ 参^リ 吾^ノ 困^ニ 合^ス 沸^ノ 入^リ 同^ノ 上^ノ 一^ノ 奈^ノ
末^ノ 年^ニ 沸^ノ 甲^ノ 三^ノ 困^ニ 大^ニ 久^ノ 保^ノ 乃^チ 辰^ノ 平^ノ 岩^ノ 亦^ク 命^メ 真^ノ 田^ノ 昌^ノ 幸^ノ カ

笠川上州沼田城攻同十月五日正四位下同月七日
近衛權中將同土甲申年 庚申三歲 二月廿三日
從三位參謀同三月 信雄ト 秀吉ト 不和之依
信雄より加勢ヲ乞 此時 作、多く日本ノ謀將
皆信長ノ思ヲ忘レ 欲ト專ニシテ 秀吉、隨テ於
我ハ府卧、信長ノ事ヲ忘ス 此度援ス、メ
一申 此心易カレトラ 七日、淡松ヲ 御出馬上方勢
拾計万五千云々

家康公遠方五千餘云々 佛對陣三月土月近
大戰九度何れも 佛利運就中四月九日長久寺

合戦秀吉ノ先陣四万三千餘兵井伊直政カ子云
並立し大敗小敵將池田玄輝父子大林長一討死
佛味方へ首ヲ得 事 幸方五千餘同土月信雄
示乃吉和睦ヲリ之れ依テ 佛飯田同十三

酉年 佛甲五歲 十二月 信雄より 支使ヲ以 秀吉ト
家康公佛和睦ノ儀ヲ 媒々

家康公遠シ玉公同十四丙戌年 佛甲五歲 秀吉より
佛縁談ヲ結シ文和セン事ヲ乞 依シ

家康公諾シ玉ヲ佛縁談ト云ハ 秀吉ノ妹君を
淡松へ 佛入與可有由又

家康公御上洛簡ハ秀吉ノ母公大政所ヲ濱松ト
赴タ人質トセント也同三月音午多平八郎忠勝
御結納有 御使者大坂ニ着秀吉忠勝、宣フハ
其方武道養 天下ノ隱ナレ吾今是ヲ稱シテ汝
ノウヘキヲ思案伏金銀ヲ少子ニハ外聞實儀
如何ナリ又比山ノ子ハ

家康公ノ心中、早者者ヲ金銀ヲ以引付ルト云
好ハ吉事 還テ惡事トナレレ仍テ西州田ノ服差
定家小倉ノ色紙菅原歌 山の多岐いぬきと里の山
おま乃にきく津のまき
汝ノ子ヲ右何れモ天下ノ名物也平八モ天下ノ名物也

名物ヲ以名物ヲナワルトノタマイテ是ヲ賜フ同四月廿日

秀吉ノ妹居濱松ニ御入薬

右御入薬日限諸書、五月廿日
有誤也惣而大政所下着

家康公御上着ハ
諸書甚相違有リ 同九月十九日秀吉ノ母公大政所人質

下着同月廿日

家康公濱松 津發駕廿七日 御上着

御留守ノ間大政所為警固被残置老臣井伊直政
大久保忠世奉多重政高力直高大野康景也
大政所ノ左側ニ柴ヲマシ着大政而異心アリハ忽
燒殺サント 守固ス同日 夜秀吉 淡野長政ヲ
為使者 御上着ヲ加シ 備此間所勞、廿三四日

對顏延引、由元此赴諸將、觸^ル同夜成刻
大和納言香長 淡世長政斗被召連 秀吉^{ヒツ}

家康公 御旅館へ御見舞有^テ此度ノ

御上洛天下ヲ某、可被下 思召^ヒ重々御礼備

夫^ト共八九十月朔日迄毎夜深更、御見舞

明二日於城可掛御目兼而申 通懇懇被成

下サレハシ左様少^ク信長以來、士共^ニ誦音ヲ主挨拶

致^シハ^シ間偏、頼入^リ御事ナリ同月二日

家康公御也 城諸士来^リ常^ニ連座^ス新庄

後河守御方披露^ス于時秀吉

家康公御上洛ノ挨拶也

家康公謹言 御法有^テ同月三日権中納言且

御供ノ士十二人從五位下同上月十日 御取回同月

十二日大政所幸州内級駕井伊重政ヲ是^レ送

リ玉^リ此時重政侍從、任^ス同十二月四日後府城へ

御移法同十五丁亥年 御取回七月大納言同

十二月廿八日兼左近衛大将左馬寮 御監同十六日

子年 御取回七月 三月十八日 御入洛四月廿八日

御取回同十七日丑年 御取回八月 三月七日 御入洛

六月十日 御取国同十二月九日北條追伐在相談

御入洛廿二日 御取国同十八庚寅年 御取九歲

正月十四日 御臺所逝去 秀吉公妹居也 行年四十八歲 号南明院殿也 同三月

新日小條追伐秀吉 先鋒上方ヲ殺ス 秀吉

家康公信雄合貳拾六万餘兵也 申シモ

家康公ノ御家人ハ此六年以來靜謐安座 樂シム

軍珍敷武器馬具皆令シ兵士ノ諸京於敵國ハ

七利輝元四万餘兵也 同四月二日小田原城ヲカキ

同七月五日小田原ノ大將氏直

家康公ハ和ヲ乞 秀吉ノ麾下ニ降依シ 七日圍トキテ

城兵ヲ出シ小田原ノ城ヲ請取 同月十日氏直

氏輝自害 氏直ハ

家康公ノ御智多クテ以助命シメ高野山ニ赴カシム

同月十三日

家康公御領甲信駿遠參五國ヲ轉シテ伊豆

相摸武藏安房上総下総上野下野江州ノ内

九万石石部関地蔵四日市ノ内須賀中泉清見寺

千石荒嶋田貳千石都合貳百四拾万貳千石御領地共

同八月朔日武州江户ニ 御移徙是ヲ関東

御入国ト云 同月九日 御家臣ハ領知ヲ被下置 壹万石

以上ヲ復ニ記ス

上州算輪拾貳万石

井伊侍從直政

上総小多森拾万石

本多忠勝

上州館林拾万石

榊原康政

相州小田原四万五千石

大久保忠世

上総矢作四万石

鳥居元忠

同上総久留利三万石

大須賀忠政

上州厩橋三万石

平岩親吉

上州藤岳三万石

松平康勝

上州笛吹三万石

酒井家次

上州小幡三万石

奥平信昌

上州白井貳万石

本多康孝

上総成戸貳万石

石川康通

下総古河貳万石

小笠原秀政

武州羽生貳万石

大久保忠隣

上州大胡貳万石

牧野康成

上総佐貫貳万石

内藤家長

上州吉井貳万石

菅沼定堅

武州岩槻貳万石

高力清長

下総関宿貳万石

松平康元

武州寄西貳万石

松平康重

野州皆川壹万石

皆川廣照

下総松戸壹万石

岳部長盛

豆州並山壹万石

内藤信成

下総多古壹万石

保科正光

上州惣社壹万石

諏訪頼忠

下総相馬壹万石

菅沼定正

下総岩富壹万石

北條氏勝

武州河布壹万石

菅沼定盈

上州那波壹万石

松平家乗

武州東方壹万石

松平康長

武州八幡山壹万石

松平清宗

武州壹万石

松平家忠

武州松山壹万石

松平家廣

上総廳南壹万石

本多正信

武州深谷壹万石

松平康高

武州本庄壹万石

小笠原信廣

上総本館壹万石

三浦重成

下総芦戸壹万石

木曾義就

武州河越壹万石

酒井重忠

此以下繁多故略

同十九年 御幸歲正月音奥州一揆為御討罪

御出馬、處蒲生氏脚悉退治し平均ヨリテ

御飯城同閏正月五日江戸御發駕 御入洛三月

廿一日還御同七月九日奥州九戸修理亮政實為

討伐自秀吉討手来り二仍テ

家康公ヲ御出馬文録元壬辰年 御幸歲二月

朝鮮攻仍テ二月江戸 御出馬十六日 御入洛三月

十七日洛ヲ出御肥前国名古屋、赴多事同二癸

巳年 御幸歲八月廿九日名古屋ヲ出御十月廿四日

江戸還御同三甲午年 御幸歲 二月 御入洛秀吉

相伴テ和乃吉野御花見同六月五日秀吉

家康公、御宮中、茶湯會ヲ招請同四乙

未年 御幸歲

家康公 秀忠公、洛陽、御越年、仍テ

群臣 御宮中、參賀ス同三月秀吉車、駕シテ

家康公御宮中、来ル此時

家康公ヨリ被進物白銀三万両衣服百綿千把

八丈嶋五百端褶三百端長光ノ太刀克忠ノ刀行光ノ

短刀良馬一疋自

秀乃忠公被進物白銀三千兩衣服五十越、後布

百端駿目一疋同五月三日 江城江 還御同七月

関自秀次依逆心十五日江戸 御發駕廿四日

御入洛慶長元丙申年 御幸五歲五月八日正二位

内大臣、御叙任同月廿一日車駕シテ

御参 内隨身四人永井直勝内藤康成松平

定之豊嶋正次也同二丁酉年 御幸六歲 日本勢

再朝鮮渡海同三成戌年 御幸七歲 正月二日

御夢想、仍石清水、御社朱其夜、於江戸

米津清左衛門力妻和歌盛年花あり 果てたまの松 爰見、其和歌

みやま 同八月十八日秀吉薨去、年三歲 依之朝鮮

渡海、軍兵各皈朝同四乙亥年 御幸八歲 二月諸將

家康公ト不快、事有塩尻吉晴并伊直政と以

御詫言申大老及中老五奉行連判、以誓紙

和熟、同三月朝鮮皈陣、諸將石田ト不和シテ

三成ヲ殺トス是ヲ 御扱被成三成ヲ佐和山、執居

十廿シメ玉ヲ同月廿六日伏見向嶋 御屋敷に御移

同四月十九日豊国大明神迁宮、御社朱同八月

大坂西丸江 御移有翌年六月迄 御止座同

十二月 摂州 御鷹野同五庚子年 御幸九歲 六月

十六日會津景勝為御征伐關東 御下向
七月二日江戸 御着同廿一日江戸 御出馬有テ
廿四日小山 御着陣之處 石田三成カ逆意ノ
告有仍テ此所 十日 御滯座有テ東國ノ令ヲ
下シ玉ヒ江戸 還御同八月朔日伏見落城
御留守居島居元忠内藤家長松平家忠
松平近正忠死不同月八日關東勢尾州 着
同九月朔日石田御征伐トシテ江戸 御出馬同
十五日關ヶ原 御陣御味方七万五千三百餘兵上方勢
拾三方八千六百餘兵即日 御利運有テ其夜

山中 御止座當子用心有テ夜ヲ明ス同
十七日佐和山落城石田丹東 三成父同空頭直成三成兄
同右近秋成直成子宇野野下野守頼忠 三成舅自殺ス
戸田洞雲 三成カ妻ヲ差殺自殺ス 三成嫡子
隼人 十三歳 城中ヲ忍ヒ出シカ遂ニ生捕シ殺害セラル
同十八日八幡山 御陣座ノ所關ヶ原僧林藏主ト
云者小西行長ヲ擒ミシテ 取テ献ス同十九日草津ニ
御陣座
勅使来テ太平ヲ賀ス同廿二日 御入洛同廿三日
田中吉政石田三成ヲ擒取テ 献同廿四日毛利輝元

大坂西九ノ福嶋池田浅野等、渡し木津下屋敷江
蟄居同廿音自秀頼大野修理亮松植大炊以以
石田才愚逆一味十ラサレ由ヲ述演入同廿六日増田
長盛大坂ノ城ヲ出テ高野山、赴シ同廿七日大坂
西九江 御移座同廿八日大坂西九江
勅使来ニ同十月朔日石田小西安国寺洛中ノ大路ヲ
渡六條河原ヲ刎首セシ時、三成三六歳江州佐和山
城丰十八万石也同月十八日諸將、恩録ヲ被下墨
其大概

播磨五拾万石

池田三左衛門尉輝政江

備後四拾九万石

福嶋左衛門大夫正則江

紀伊三拾七万四千石

浅野左京大夫幸長江

筑前五拾万石

黒田甲斐守長政江

備前四拾七万四千石

金右甲納言秀秋江

豊前三拾九万九千石

細川越中守忠真江

肥後五拾壹万石

加藤主計頭清正江

筑後三拾壹万石

田中兵部少輔吉政江

土佐貳拾万石

山内攝津守一豊

出羽 隠岐 貳拾四万石

堀尾 二布力吉晴父子江

伯耆拾七万五千石

中村一孝一氏江

丹波宮津拾万三千石

京極修理高矩江

丹波福知拾万石

有馬吉蕃以豐氏父子江

越前六拾七万石

松平三河守秀康江

尾張六拾万二千石

松平薩摩守忠吉江

奥州会津六拾万石

蒲生野澤守秀行江

加賀利長能七并小松大野寺拾八万石御加増

伊達正宗自石計万石御加増

最上義光毛切取分御加増

後堂高虎拾万石御加増計拾万石成也

上杉景勝九拾万九千石御召上三拾万石被下

佐竹義宣八拾万石御召上三拾万五千石被下

毛利輝元百斗万石御召上三拾六万石餘被下

此外法加恩又領知減方之面、数多故略し

同六年壬午 御召上 二月以讓代元へ御加恩同三月

廿三日伏見城へ御移同十月江戶へ還御同七月

壬寅年 御召上 正月六日從一位同二月十四日伏見へ

入御同三月十三日大坂へ入御秀頼へ御對顔十五日

伏見へ還御同六月十日本多上総入正純へ

余へ南部東大寺蘭者待り切せらる

勅使勸修寺右大弁克豊 柳系右大弁業光廣橋
右中弁徳光

勅^レ奉^テ宝藏封入 同十月江戸 還御同十月

御入洛同八癸卯年 御年十二歳 二月十二 征次大將軍賜

牛車兵杖淳和將女學方院 別當源長長者右大臣

同廿五日將軍 宣下御深賀 同九月江戸

還御同九甲辰年 御年十三歳 三月 豆州契海

一七日御入湯吏^リ 伏見^ニ 入御同年朝鮮人

末朝僧松雲孫文或金孝^ニ 拜文祿^ノ 浮圖^ヲ 乞

是^ヲ 許^ト 王^ノ 同十二己巳年 御年十四歳 二月 伏見^ニ

入御同四月 七日將軍子集 同十月 江戸

還御同十四辛酉年 御年十五歳 三月 御入洛同

十二未歲 御年十六歳 二月 後府^ニ 還御同五月言

秀忠公將軍 宣下^ニ 為^ス 加^シ 派^シ 奉^ル 胡^ノ 朝鮮人

駿府^ニ 登城同七月三日 駿府城新營成^リ

御移座同十月江戸^ニ 入御有^テ 十二月駿府^ニ

還御同廿六日 後府城悉^ク 失火 同十三戊申年 御年十七歳

三月十一日 後府城 回祿後 經營成^リ 御移座同

九月江戸^ニ 入御有^テ 十二月八日 駿府^ニ 還御同

十四己酉年 御年十八歳 正月 尾州清洲^ニ 入御二月

十日駿府 御取城同四月四日駿府、御庭、
異人有四肢指無、敝衣乱髮、ミシテ青蛙食、春
所ノ間ハ天ノ向テ指サス殺ス事ナカレト

上意有テ御城外、放ス其行方ヲ不知同十五庚
戌年 佛立九歳八月八日琉球中山王駿府へ登

城純子百卷羅紗百卷芭蕉布百卷大平布
斗百卷ヲ献ス同十月 武城、入御十一月

還御同十六辛亥年 佛七歳三月 御入洛同月廿日

勅使奉テ大政大臣任シ菊桐御紋可賜由

勅許有ル處大政大臣ヲ辞シテ新田義直及

佛立又廣忠心、贈官清願寺又兼桐御紋ノ

事ハ新田是利ト相別シテ源家ノ与雄威ノ事ヲ

此ハ後醍醐天皇ヨリ是利等氏、兼桐御紋ヲ

以下彼氏族今、用奉ル未代、及テ新田家御紋

勅許トアルハ是利方、似タリト

勅答有テ 佛立退テ同月廿日秀頼塔ノ後有テ

家康公、渴ス同五月 後府 還御同十月江戸

入御十一月 還御同七月壬子年 佛立十歳閏十月江戸

入御有テ所、佛立癸卯十二月後府 還御同十八

癸丑年 佛立十一歳九月 江戸、入御有テ御立年

同十九甲寅年 御七十歳 正月廿九日駿府へ

還御同七月 洛陽大佛鐘、銘成就、併

家康公御心、不叶、依之、没殿、秀頼ヨリ、片桐

東市、正且、元并、大藏、今、向、正栄、ヲ、駿府へ、越シ、テ

陣謝、正玉、ヲ、同、十月、ヨリ、大坂、御出陣令、ヲ、下シ、玉、ヲ

同、十一月、十日、駿府、御出馬、十八日、大坂表、至、玉、ヲ

同、月、十九日、蜂須賀、玉、孫、淡、理、長、晟、釋、多、崎、ヲ、攻、

同、月、廿九日、石川、忠、徳、博、房、淵、去、依、在、ヲ、政、兵、蜂、須、賀、

公、慎、阿、波、津、ヲ、破、シ、松、平、忠、徳、今、格、ヲ、破、シ、同、十一月

廿日、松、平、忠、徳、有、馬、豊、氏、天、満、乱、入、テ、所、シ、放、大、同、月

廿日、没、殿、ノ、使、二、位、局、郷、食、庭、局、和、睦、ヲ、為、使

御陣中、幸、為、人、質、織、田、武、藏、守、大、野、信、濃、守、ヲ、從

秀、頼、献、ス、同、月、廿、一、日、和、睦、為、謝、礼、秀、頼、ノ、使、者

大、野、主、馬、从、木、村、長、門、守、御、陣、營、上、之、同、月

廿五日、茶、磨、山、ヲ、出、御、有、而、御、入、洛、同、二十、九、年

御、七十、歳、正、月、二、日、洛、ヲ、出、御、二、月、駿、府、へ

御、飯、城、同、四、月、四、日、再、大、坂、為、征、伐、駿、府、御、出、馬、同

廿八日、御、入、洛、同、五、月、五、日、星、田、御、陣、座、同、七、日

御、利、運、大、坂、落、城、其、夜、茶、磨、山、御、陣、座

大、樹、岳、山、同、八、日、御、入、洛、其、日、朝、秀、頼、被、生、害

乍利豐前守勝永以借手三歲

大樹伏見、還御同廿日秀賴息童固松於六條

河原誅同六月十五日

家康公系 内閣六月十六日以武家古法書被授

大樹同廿一日

大樹系

内

七月十日慶長九年号元祿改元

元和元乙卯年

七月十七日

大樹二條、入亭、詔謁

家康公、同十九日

大樹伏見、入御同八月四日

東武、還御此日

家康公洛、

出御名護屋、数日御滞座有而

廿三日駿府、還御同廿四日

大樹使酒井俊俊守祝

家康公還御同九月廿日

家康公為狩關東所、經数日、十月九日至神奈川、

大樹来謁此十日江戸、十五日来信

大樹卒城、二十日狩戶田廿七日 還御入江戸二月十日

家康公出江戸、同十六日駿府、還御同二月

辰年 御七十五歲 正月廿一日駿州田中御狩其夜、

御病痾、廿四日駿府、還御同三月十七日大政大臣任

勅使廣橋大納言兼勝三條大納言實條同廿七日

倫命、受後府城同廿九日

勅使、駿府城、饗應 四月十七日

御他、畏春秋 御七十五歳 駿州補陀洛山久能寺、

葬 此規式、三州大樹寺、有之

御法名 一品大相国安国院院德蓮社崇譽道和大居士

安国寺殿氏

元和三年二月廿日 勅而号

東照大權現

同月九日贈心一位依 御遺言同月廿五日

神靈、野州日光山、御改葬、寅上刻大僧正天海

鋤鉄、取、是、大職冠、葬、改、旧例也

同靈 桓善徳寺、至、本多上野、心純土井大炊頭

利勝松平右衛門大夫心久板倉内膳正重昌秋元

但馬守泰朝成瀬隼人正成安藤帶刀真次

中山備前守信吉 神原内記照久大僧正天海

供奉、十六日三嶋、至、此所、二日十八日小田原、至、

此所、三日留、廿一日武州府中、至、此所、五日留、

廿五日酒井備後守忠利 天海、請、論義、執行、

廿七日忍、至、廿八日佐野、至、本多上野、心純新夕、

神殿、修、靈 桓、請奉、廿九日鹿沼、至、此所、

四月三日逗留、四月四日未、中刻日光山座禪院、入、同

合 聖 柩 廟 塔 收 同 西 日

神 靈 之 假 殿 奉 移

宣 命 使 河 野 宰 相 實 顯 同 十 六 日

神 靈 之 正 殿 奉 移 宣 命 使 中 御 門 宰 相

宣 衡 奉 幣 使 清 閑 寺 宰 相 共 房 同 十 七 日 放

御 奉 社 御 法 會 有 法 導 師 天 海 咒 願 正 覺 院

權 僧 正 證 誠 梶 井 二 品 親 王 最 胤

正 保 二 乙 酉 年 十 月 三 日

家 光 公 御 治 世 勅 而 宮 号 之 賜 字 稱

東 照 宮

是 新 帝 御 身 位 大 權 現 神 助 依 有 之 也

勅 使 傳 奏 飛 鳥 井 大 納 言 菊 亭 大 納 言 高 倉

大 納 言 也

家 光 公 祝 之 三 使 一 千 石 充 賜 加 恩 之 所 謂 日 本

三 千 七 百 餘 社 內 宮 號 八

天 照 皇 太 神 宮

八 幡 宮

天 滿 天 神 宮

東 照 宮

四 宮 而 已 也

同 月 十 七 日

勅 使 今 出 川 前 大 納 言 經 秀 日 光 山 至 於

御 神 前 讀

宣 命

獻二州大樹寺 厭離穢土欣求淨土 淨穢

日光山 綱

御簾之箱封印慈元大師附之年、御虫干三封印

終而可解事於取出、天下大事、慈元大師

封、十六、御別當大樂院語、十、閣受、慈元、慈德大師

天六

久能山 德音院

日光山 大樂院

東叡山 寒松院

三緑山 安立院

紅葉山

御母公 三州 城主水野右衛門大夫忠政女

天文十三年

竹千代君、御妹御誕生後、廣忠御御離縁其後

久松佐渡守定俊、妻卜被為成、御子數多御産有

松平隱岐守定勝等産、慶長七、壬寅年八月廿九日放

江府御逝去、干時七十五歳、小石川傳通院、葬

御法名 傳通院殿先出容 睿智先大禪定尼故、

今謂傳通院、無量山寺、号、壽經寺、卜、

御離縁、詠、津舅水野右衛門大夫忠政、天文十三年

卯年七月十二日卒去、以後息、下野守信元、今川、

肯キ織田へ志ヲ通ス 廣忠御ハ今川ノ助成ヲ受
長トナラセ玉シ故信元ト義 有テ御事女ヲ佛離縁
ナリ干時 若君 竹千代君 御歳御送ノ士參州荊屋近所
大町ト云所迄御供申處 大御方様被仰ケルハ
汝等ハ吾ヲ此所ヲ捨置テ可皈兄信元ハ普通ノ
短氣勇猛ノ人ナレハ者送リ来ルト聞ハ兵ヲ發シハ
汝等ヲ討ツルニ今廣忠御 別レ參スト云氏
竹千代君ヲ殘シ置ケハ 汝等ヲテ度疎カナラス
竹千代殿成長ノ後ハ信元トハ叔父甥ノ交ナレハ遂ニ交和
有レシ然レ信元 汝等ヲ殺シ其遺恨殘リ和熟ノ

妨ト可成由言葉ヲ尽シ玉フ故御送ノ士共仰レ隨
近邊ノ御氏ハ乘輿ヲ昇シメ荊屋迄皈サセ申去氏
無覺東行程五六町ヲ去テ遙ニ見送り申セハ
御意ハ遠ニ域中ヨリ數百兵發シ出タルトモ
沛送りノ士ハ皆立皈百姓共非トハ無是非兵ヲ
收メテハ誠ニ天下ノ主ト被成給小 各感シ奉ル
君ノ御母公程 御思慮ト

小石川
傳通院

御臺所

駿州住今川義元妹智瀬名御住關口刑部少輔
親長女築山様卜号弘治三丁巳年足崎城卜
御入庫天正七巳卯年八月廿九日故有御生害
遠州濱松清瀧寺葬檢使石川太郎九衛門以錯
出本平右衛門

御法名西光院殿政岩秀貞大炊
式日秀珍院殿

又曰

清地院殿 西来院殿

龍泉院殿 松春樹負大清瀧寺
遠州

清瀧寺

御再縁

御臺所

豊臣太閤秀吉胤習ノ妹君織田信秀同朋
筑阿弥女大和納言秀長同胤同腹也朝日君
祢不駿河御前天正十四丙戌年四月從摂州

大坂城遠州濱松城御入稟同大庚寅年

正月十四日放聚樂亭御逝去 御早八歲京

東福寺地中南明院葬

御法名 南明院殿

京

東福寺

御部屋西御局遠州住人秋山十郎女伊賀者服部

平大夫妹三州住西御彈正丸高門正勝養女出崎

奧勤於濱松城

未乃忠公忠吉卿 御誕生天正十七己丑年五月

十九日於駿府御逝去御平名於桐方御年

二十八歲同所龍泉寺葬

御法名 龍泉院殿松蒼樹貞大姉

寬永五戌辰年

秀忠公御代仍 御執卷贈正一位

宝臺院殿一品大婦人松蒼貞樹大禪足尼下

改号龍泉寺金榮山宝臺院 其前改号

駿州

寶臺院

御部屋於萬方尾張也鯉鮒住永井志摩守女
或曰田村意齊女ナリト云天正年中畠崎奥勤同国
於有昌美村秀原御誕生元和己未年十二月
六日於越前北庄御逝去御年七十二歳

御法名 長勝院殿松宝妙戒大姉

御部屋下山方實武田信玄才六女又信玄舍才
秋山越前守虎康ノ女ト云穴山陸奥守入道梅雪
養女ト云畠崎奥勤遠州於濱松城信吉君
御誕生慶長八癸卯年九月十二日御逝去三歳武而

八王子横山信松 禅院 葬

御法名 長慶院殿天蒼壽清大姉

又曰浅草西福寺 葬

良雲院殿下号

武州

信松禅院

御部屋西郡方鶉殿長門守長持ノ女鶉殿大隅守
長照ノ妹天正年中濱松奥勤於畠崎
督姫君御誕生慶長土丙午年五月十四日御逝去

京本禪寺之葬

御法名 蓮葉院殿

京

本禪寺

御部屋於茶阿一方遠州金谷鑄物師，妻其夫為人折殺也於是娘携乃道

家康公御放鷹之道而見給駕乘

歸御天正年中濱松與勤文祿元壬辰年於

遠州濱松忠禪御誕生元和二丙辰年

家康公薨御後落從駿府江戶下向

元和七年酉年六月十三日御逝去武州吉水宗慶寺

葬携所娘後年花井遠江守江家去

御法名 朝覺院殿貞誓宗慶大師

武州

宗慶寺

御部屋於龜一方清水甲斐守宗清養女實者洛陽石清水八幡神職清水加賀守菅原清家女於伏見仙千代君義直御誕生御存生内淨土宗

石清水正法寺ヲ再興有テ寺領五百石寄附有
寛永十九辛卯年九月十六日於尾州名護屋御逝去
同國妙龜山相應寺ニ葬

御法名 相應院殿心眷公母大姉

尾州

相應寺

御部屋於萬方蔭山刑部養女實八上総大瀧
城主正木九近大夫邦時三女後康長入道寛齊
改於伏見城 賴宣御賴房御 御誕生蔭山殿号

兼應二癸巳年八月廿日御逝去池上本門寺ニ葬

紀州尾一寺建立有レ養珠院上号龍林寺

御法名 養珠院殿妙紹日心大姉 英朝寺

御誕生於英朝寺池上

本門寺

英朝寺一号 寛永十五年八月廿三日御逝去

御部屋於加知方太田新六郎康資一女他勝レ

御愛妾也初女子御出生其後御早世三付愁歎不方レ

一筋、菩提ノ志、思付刺髪ノ御願有レ之レ氏更レ

御免ナ幸於萬方臙臙多六出生ヲ早速其也

御子ヲ養育可申ノ重キ

上意ニ仍テ歎ヲ止リ則其節御出生ノ頼房卿ヲ

御養アリ俗ニ云母不知其貫ト云心也扱相州鎌倉

比丘尼寺建立寺領五百石三浦池子村ノ寄附有テ

英勝寺ト号寛永十九壬午年八月廿三日御逝去

江戸瑞松寺ニ葬

御法名 英勝院殿長峯清峯大禪定尼

鎌倉英勝寺

江戸瑞松寺

養育ニ終リ年八月廿日御逝去出土木門ノ葬

御部屋 間宮豊前守康俊ノ女

松姫局御誕生幕評也永祿四年身ヲ捐御

御部屋 遠山丹波守直景ノ女

市姫局御誕生幕評也永祿四年身ヲ捐御

御部屋 保科彈正直直

御部屋 安房守信吉

女子

初縁

松平子市忠正室

再縁

松平子二郎忠吉室

再縁

保科彈正直直

忠正方ニ内膳家廣ヲ産 忠吉方ニ安房守信吉

左馬次忠頼ヲ産 正直方ニ二男四女ヲ産 一八女部

攝津守信盛妻二、黒田筑前守長政妻三八
保科彈正忠正與四、小出大和守吉英妻五、八
加藤式部少輔明成妻六、北條出羽守氏重九、備前大夫
氏勝、養子也

初荒川甲斐守頼持妻此所、一女子産此女成長、
女子酒井備後守忠利妻、上成、二、筒井伊賀守定次
妻、被下置市場殿法名、宝鏡院殿

荒川、初吉良、幕下也、永禄四吉良、肯、
御家、来り、忠戦有、

家康公御感有、御妹居、嫁也、然、必同、去、年、
一向宗、一揆、下、子、御敵、對、申、翌、春、一、揆、降、年、
時、其、罪、ヲ、恐、レ、妻、子、ヲ、捨、テ、河、内、國、江、走、リ、所、録、ヲ、
頼、レ、繼、居、シ、彼、地、ヲ、病、死、ス、筒、井、元、来、順、慶、三、年、
南、部、之、衆、徒、也、レ、カ、信、長、及、秀、吉、ノ、忠、勤、宗、伊、賀、
一、國、八、万、石、ヲ、領、テ、關、ヶ、原、御、陣、ニ、ハ、シ、林、妻、子、
家、康、公、ノ、御、供、申、忠、勤、云、然、レ、處、慶、長、十、三、申、年、
六、月、筒、井、ハ、切、支、丹、宗、門、ニ、由、中、坊、飛、騨、守、カ、
訴、レ、故、御、改、易、也、

家元

徳川三郎五郎

下威殿、御子也

家康公忌辰、御在城、時其母訴訟之云、某
昔、廣忠、御子、曠妊、信是、乃、流、按、可
持、出、由、被、仰、御、服、着、賜、リ、タ、リ、ト、ウ、持、来、是、ヲ
御、覽、之、ハ、御、家、ノ、車、室、一、尺、六、寸、貞、宗、十、リ
此、上、ハ、無、疑、ト、リ、被、召、出、然、レ、モ、多、病、シ、テ、人、前、難、成
一、生、誓、居、敢、知、人、稀、也、慶、長、八、年、八、月、十、日、在、去
五、十、六、歳、天、文、十、七、年、申、年、上、月、生、ナ、リ、其、翌、年、一
三、月、六、日、廣、忠、御、内、逝、去、故、中、上、院、御、ホ、ウ、カ、年、之、年

家康公ハ中上ト云レ

清法名、正元院、破、佛、傳、宗、英、大、居士

信成

承、應、十、年、春、御、奉、御、清、法、名、正、元、院、破、佛、傳、宗、英、大、居士、三月二日

康元

松平三郎太郎

定勝

松平三郎四郎 後、隠岐守

康俊

松平三郎三郎

女子

松平丹波守康長室

女子

松平玄蕃次家治室

信康

永禄二己未年三月六日於後府城津誕生内世公

築小祿御幼名竹千代君同壬戌年從後府

石川伯耆守忠清以供奉同六癸亥年三月二日

以信長公女為夫人元龜元年八月廿日御元服

加冠信長忠清次郎三郎信康卜改天正七己卯年

九月十七日逆心由浪言依三州二保城三内生害

同年二十一歲檢使天方山城了人指服於中藏

同国大樹寺以葬後同所清成寺以葬二保ノ

城代以芦野下総了幸成

御法名清成院殿前三位遠岩若送大居士

式ハ

光徳院殿 又 騰雲院殿 常法院殿

三州

清成寺

女子 小室系兵部左補少政亮

女子 本多美濃守忠政室

龜 姫 局

永禄三庚申年於駿府城御誕生母公龜山 標

天正四丙子年七月與平兵衛信昌、嫁之從至崎

同国新治 市入與慶長六年二月信昌

美濃国加納 給同年九月加納 市移加納

佛前卜 号不寬 永二己巳年五月廿七日於同所逝去

同国淨土泉盛德寺 葬丙午年六十八歲 野蘭東

御法名 盛德院殿香林慈雲大姉 并養對

濃州城 同

盛德寺

督 姫 局

永禄八己巳年於三州墨碓城御誕生母公西御局

天正十癸未年七月九日相州小田原城主北條相模守

氏在 嫁之同十八庚寅年七月十八日小田原落城後

墨碓 御飯城氏在 死去後文禄三癸巳年九月

池田三九衛門宰相輝政江再録慶長十八癸丑年

正月廿五日輝政死去後落日良照院殿下号入

元和元九卯年二月四月旅播州姫路以逝去以年

幸一歳入洛陽東山知恩院江葬播磨国三一寺

建立有江慶安寺卜号

小泉清法名良照院殿知光慶安大姉

天正四年十月七月具平江京東山

同因江知恩院

美江上條氏江祖伊勢平氏伊勢新九郎氏義俊

同因江上條宗雲宗瑞十号江始備中国江領江所關東江

同因江上條伊豆国江至江家名北條江改江宗雲江

五代江至江此氏江也江然江天正十八庚寅年三月

同因江上條江晦月相州小田原籠城同年七月江首秀吉江

同因江上條江絶江是江五代北條江之江然江今

式江有北條江皆宗江雲江別江也江頼朝江執權職江

同因江上條江北條四郎時政江家江別江故江知江

同因江上條江氏直江法名松嚴院前江京江大國江微公大居士

同因江上條江同江上條江同江上條江同江上條江同江上條江同江上條江

秀康卿

天正二甲戌年二月八日旅三州有富美邑御誕生

傳知名於義丸君法母公旅萬一方式日景督局
同土癸未年大閤秀吉為養子秀，字桐紋
賜同土甲申年十月從濱松攝州大坂正傳登
同年土月十一日放同所御元服羽柴三河守秀康下
改從五位叙任侍從同十三乙酉年七月十日從四位下
左近衛權少將任同十六戊子年四月十四日任中將
同十八庚寅年八月六日結城晴朝養子結城ノ
家ノ嗣結城三河守下號慶長五庚子年十一月
歸本性越前國福井六拾七万石給同癸卯年
二月十二日正三位宰相任同十七乙卯年四月十六日

權中納言任同十二丁未年閏四月八日放越前
正遊去結城孝顯寺正葬正丙午年三十四歲

傳法名 存顯院殿 三長黃門吹毛月冊大居士

後年越前國江改葬有淨光院正葬

御法名 淨光院殿 森岩道譽大居士

越前

淨光院

秀乃忠公

天正七乙卯年四月七日申刻於遠州濱松御誕生

御童名長松君後竹千代君卜号御母公西御局

後室基院殿下号同十五丁亥年 御九歲 八月八日

御元服從五位下藏人頭同十六丁戌子年 御十歲 正月

五月正五位下同十八庚寅年 御十一歲 秀吉為御對顏

正月御入洛十五日御對顏廿六日駿府還御同

十二月廿九日從四位下侍從同十九辛卯年 御十三歲

正四位下少將同十一月八日參議右近衛權中將

文祿元壬辰年 御十四歲 七月秀吉母公逝去

御悔清上丁未同九月九日從三位權中納言同十月

十日江戸還御同二癸巳年 御十五歲 閏九月

御入洛同三甲午年 御十六歲 十一月御入洛聚樂

御越年一度長二十酉年 御十九歲 武州稻毛村

御發野先三月御痘瘡同三戌戌年御二十歲 秀吉

病氣三月御入洛九月三日江戸還御同五庚子年

御二十三歲 七月十九日會津景勝為御征討江戸

御出馬然處石田力逆意仍注進路次御飯城

同八月廿四日真田為御征伐江府 御出馬同九月

真田力籠城、從兵圍、廿三日大津、着御同

十月十九日大坂、渡御同六年辛丑年 御三十三歲 三月

廿八日從二位權大納言同四月江戸、還御同

八癸卯年 御二十五歲 三月七日兼右近衛大将右馬寮

御監同九月辰年 御二十六歲 四月 御入洛同十二年

御二十七歲 二月廿四日江府 御首途有之所、御滞留

三月廿一日 御入洛供奉、軍拾方餘人同四月七日

家康公將軍職 秀忠公被讓旨依 卷閱同月十六日征夷大將軍

賜 車隨身兵杖淳和集字支院別當源氏

長者正二位内大臣同月廿六日 將軍

宣下 為月 賀車、駕、御朝參同六月四日

江戸、還御同十丙午年 御三十八歲 江城新

營成、九月廿三日 御移徙同十二年 御三十九歲

閏四月廿四日朝鮮人奉朝信使呂佐吉 副使慶還

從事、丁好寬同五月六日朝鮮使登城大鷹馬五十連

人參二百斤幅純百卷虎皮三十張豹皮二十張青皮

十張白草布三十足黑麻三十足花席二十枚 紋

五十帖、獻、長刀十五振白銀六百枚、三使、被下、

同十三戌申年 御三十歲 八月 駿府、入御九月三日

江戸、還御同十四己酉年 御三十一歲 嶋津家久、

命ノ琉球國ヲ討シム首ヲ得ル事三百餘級殘兵
悉降年遂、中山王ヲ擒シテ獻ス則琉球國ヲ
嶋津、賜ル同十五庚戌年 御三十一歳 三月駿府江
入御五月江戸ニ還御同八月廿五日琉球中山王
登城純子百卷羅紗百卷芭蕉布百卷大平布
二百卷ヲ獻ス同十七壬子年 御三十四歳 三月駿府江
入御四月江戸ニ還御同十九甲寅年 御三十六歳 三月
九日從一位右大臣同十月廿三日秀頼為御誅伐
江戸 御出馬十一月十八日大坂表出玉ヲ元和元乙卯年
御三十七歳 正月十九日大坂ヲ出御江府ニ赴ケ玉ヲ同

四月十日秀頼為御征伐再江戸 御出馬五月
五日須臾、御陣座七日、落城九日伏見城、
入御同八月四日江戸還御同二丙辰年 御三十八歳
家康公御不例、仍テ二月朔日江戸 御發駕翌
二日駿府城、入御同四月廿五日久能山
御年詣同三丁巳年 御三十九歳 四月日光 御社集同
九癸亥年 御四十五歳 七月 御上洛同月廿七日
御隱居祿
大御所公ト寛永元甲子年十二月西九江
御移同三丙寅年 御四十八歳 五月日光 御社集

同年 御上洛八月十八日 御朱内從一位大政大臣
同九子申年 御幸四歲 正月廿四日 御他殿三綠山
増上寺 江蘇 御院号ハ廣度院ト云ハ

御産神ハ遠州諏訪大明神也 同年二月十日
勅謚 御贈位

御法名 台徳院殿 一品大相國公尊議

御別當 惠眼院
寶藏院

五月貞景公御事至女相ハ御別當ト云ハ
御別當ト云ハ御事至女相ハ御別當ト云ハ

御臺所

於江子君大間秀吉養女實ハ佐々木宰相義秀

執權江州小谷城主清井備前守長政女ナリ長政ハ

三女有リ嫡女ハ秀吉ノ 御臺所 澁殿 二女ハ若狹宰相

京極高次ノ室 三女ハ尾州御土佐治子九郎ノ妻トシテ

秀吉取返シ玉ノ丹波宰相羽柴小吉秀勝ノ嫁トシメ

秀勝死去後九條道房公嫁道房公薨去後大間

秀吉ノ養女ト被成

秀忠公 江蘇 嫁ス 文禄四乙未年九月十七日 伏見城 江
御入 慶長十八癸卯年 江戸 江 御入

家光公及御子数多産玉ノ寛永三丙寅年九月十五日於西九御逝去増上寺正葬

御法名 崇源院殿一品大夫人昌誓和奥仁清大禪尼

又之崇源院殿母公公織田信長ノ妹也長政信長ノ戰ノ後

於夏大正元年九月自害其後有妻ハ三人女子ヲ

紫田勝家嫁然然処上癸未年四月勝家ハ秀吉ノ

為於越前小庄生實其時妻女ニ自滅也有ニ中村

文哥有十六老臣引連テ立退其レ信縁談此ニ女ハ無隱美也

別高家勝院

尚書所

御妾於静ノ方武州板橋ニ在竹村神尾氏娘也

慶長年中奥勤依曠妊信勝院比丘尼ハ抱

慶長十六辛亥年五月七日武州足立郡大昌木村而

幸松君ノ産寛永十二亥年九月十七日逝去

奥州會津浄光寺正葬

御法名 浄光院殿法昭正忍大禪

奥州會津

浄光寺

忠吉卿

天正八庚辰年九月於遠州濱松城 御誕生

御童名福松君侍母公西御局文祿元壬辰年

二月 御元服世良田下野守忠吉卜改武州忍城附

拾部万石給慶長五庚子年十月七日尾張國

清須城六拾部万石給松平薩摩守卜改同六

辛丑年三月廿九日從四位下侍從任同十二己年

四月十六日從三位左近衛權中將任同十二未年

三月五日於大友保加賀守忠常館内逝去以年

二十八歲增上寺葬

御法名 性雲院殿憲永大居士

御誕生於天正八庚辰年九月十三日於遠州濱松城...

振姫君

天正八庚辰年於遠州濱松御誕生 御母公

下山方慶長元丙申年 蒲生飛彈守秀行

嫁入同十七壬子年五月十四日秀行死去後依

上意元和二丙辰年三月七日淡野但馬守長晟

再嫁同三丁巳年八月廿九日逝去以年三十八歲紀

松應寺葬

御法名 松清院殿英譽果 旣善芳大姉

御子成長松平、御祚号被下松平安藝守光晟

改也

紀州 松雲寺

信

天正壬午未年九月十三日於遠州濱松御誕生

御童名武田萬千代丸御母山下方後松平

七郎、被段文禄元壬辰年下総佐倉城拾万石給

慶長七壬寅年十月八日常陸國水戸城拾万石

御加増計拾五万石、被成下同八癸卯年九月廿日逝去

無継子家断絶、以年二十一歳水戸浄鑑院其葬

御法名 浄鑑院殿英譽崇山岩大居士

水戸 浄鑑院

忠 輝御

文禄元壬辰年於遠州濱松御誕生御童名辰十代君

御母公放茶阿方初皆川山城守藤原廣照美良墨

慶長、初長澤、松平上総父康忠、家相續

七壬寅年下総國佐倉城四万石給同八癸卯年

二月六日信州川中嶋拾四万石給松平上総忠輝
被改同十二年四月十六日從四位下左近衛權少將
任同十五年庚戌年閏三月二日越後高田城六拾万石
被下北陸道ノ旗頭成越後少將卜号元和
二丙辰年七月十二日依御勘氣伊勢ノ朝熊江
遠流九鬼長門守守降奉預同四年丙午年三月五日
飛彈國高山城主金太長門守頼宣江預替
飛彈、移寬永三丙寅年四月四日信州諏訪城主
諏訪因幡守頼永江御預替諏訪江移天和三癸亥年
二月廿二日旅同所内逝去浄土宗同所真松院（三日月アリ）葬
御年九拾二歳

御法名寂林院殿心誓禪意月仙大居士

信州大窪真松院

御笠原甲八仙臺陸奥与正宗ノ女慶長土丙午年

正月嫁落去後正宗ノ館ノ歸内西館申其後

逝去松嶋小瑞巖寺江葬法名天麟院殿

松千代君

文禄三甲午年旅遠州濱松御誕生御母公
所茶阿ノ方平岩主計頭親吉乃養子慶長

四巳亥年正月十二日內逝去年六歲
御法名 榮昌院殿

仙千代君

文祿四乙未年於伏見御誕生母公於龜川方
慶長五庚子年三月七日內逝去年六歲尾及
名護屋高岳院葬

御法名 高岳院殿花林陽大童子

尾州 高岳院

松姬君

文祿四乙未年於伏見御誕生母公間宮豊前守
康俊女慶長三戊戌年正月廿九日內逝去年

四歲嵯峨清涼寺葬

御法名

嵯峨 清涼寺

義直卿

慶長五庚子年十一月廿八日於伏見 御誕生

法童名 千世丸後五郎太君母公於龜川方

同八癸卯年正月廿八日於甲州貳拾五万石給
同年十二月國主卜定同土丙午年八月十一日
七歲而御元服從四位下侍從任德川右兵衛督
義利改同土丁未年閏四月廿六日轉甲州
尾張一國三州濃州之内六拾壹万九千五百石
忠吉卿遺跡ヲ給同十五庚戌年閏二月依
台命以清須城名護屋築直同十六辛亥年
三月廿日從三位參議近衛權中將任義忠改
同十八癸七年八月十九日宰相任元和丁巳年
九月十九日正三位權中納言任寬永三丙寅年

八月十九日從二位權大納言任慶安三庚寅年

五月七日於江府御逝去以年五十一歲尾張

建中寺尾張

御法名尾張二呂無相尾陽候源公神主

尾州建中寺

御簾中淺野紀伊守幸長之女也寬永十四丁巳年

四月廿三日逝去法名高原院殿大岳宗椿大禪定尼

賴宣卿

慶長七壬寅年三月七日於伏見城御誕生御童名

長福名御母公於萬一方同八癸卯年十一月七日
常陸國水戸城卅拾五万石餘信吉卿遺給
同九甲辰年同國内五万石增給同十丙午年
八月十一日御元服從四位下侍從任德川常陸以
頼將上改同十四己酉年十二月轉常州駿河遠江
五拾万石給同十六辛亥年三月廿日參議從三位
左近衛權中將任頼宣上改同十八癸七年
八月十五日宰相任元和三丁巳年七月十九日正三位
權中納言任同五己未年七月十九日駿遠
轉紀伊一國并勢州内合五拾五万石給

寬永三丙寅年八月十九日從二位權大納言任

寬文七丁未年五月廿三日隱居同土辛亥一年

正月十日於紀州御逝去享年七十歲紀州濱中

長保寺江蘇

御法名 南龍院殿前二品丞相顯永光大居士

紀州 長保寺

御簾中 加藤肥後守清正女寬文六百午年

逝去法名 瑤林院殿淨秀日芳大姊

賴房御

慶長八癸卯年八月十日於伏見城御誕生

御童名鶴千代君御母公於萬一方依

台命太田氏於八一方ヲ以休養母トス同土丙午年

九月廿三日常州下妻ヲ賜同十四己酉年十二月

廿二日轉下妻水戸城貳拾五万石賜從四位下侍從

左衛門督賴房ト改同十六辛亥年三月廿日叙正四位

左近衛權少將其後同國松尾小川田餘三万石増給

元和六庚申年八月廿二日参議任寛永三丙寅年

八月十九日從三位權中納言任同四丁卯年正月七日

正三位任寛文元辛七年七月廿九日於江戶御逝去

御年五十九歳

御法名 顯孝正三位前權中納言水戸府君源成公

市姫君

慶長土_下未年正月元日於駿府御誕生御母公遠山

丹波守直景女同十五庚戌年二月十一日御逝去

御法名 清雲院殿 芳忍女童女

駿州

華陽院

御養女

實ハ保科禪心忠政直女
黒田筑前守長政室

御養女

實ハ本多美作守忠敦女
有馬左衛門佐直純室

御養女

實ハ松平隱岐守定勝女
松平土佐守忠義室

御養女

實ハ水野和泉守忠重
加藤肥後守清正室

御養女

實ハ
有馬玄蕃頭豊氏室

千代婚君

慶長二丁酉年於伏見城御誕生

御臺様御服同八癸卯年七月廿八日豊臣

内大臣秀頼公嫁伏見城大坂江御入輿

大久保相模守忠隣乘輿隨秀頼淺野九京大夫

幸長ヲ以令迎同二十乙卯年五月七日大坂落城後

江戶江御下向元和四戊午年本多中務大輔忠刻

再縁同七月十日御入輿寛永三丙寅年七月

忠刻卒去後同年十二月六日落傍行橋御殿江

御入天樹院様卜号登九様卜称寛文六丙午年

二月六日於同所御逝去小石川傳通院江蘇 七十一歲

御法号 天樹院殿 榮譽源法松山大姉 傳通院

子 小姫君

慶長四己亥年於江戸御誕生

御皇様内腹同六辛丑年九月晦日加賀

小松中納言利常江蘇嫁元和三戌年七月

十三日病逝去御年二十三歲加州人金沢小野

御法名 天德院殿就暹淳貞大姉

加賀全氏天德院

勝 姫君

慶長六辛丑年於江戸城御誕生

御皇様内腹同十六辛亥年越前守相正江蘇

嫁元九月八日江戸御出立同月廿八日越前國福井江蘇

御入干時十一歳元和九辛亥年五月二日忠直江蘇御

依御勘氣豊後國萩原江蘇配流依江蘇姫君并内嫡

二月六日於同所御逝去小石川傳通院江葬
享年七十一歲

御法号 天樹院殿榮譽源法松山太師
傳通院

子 姫君

慶長四己亥年於江戸御誕生
御皇様内腹同六癸丑年九月晦日加賀

天德院江葬

御法名 天德院殿就運淳貞太師

加賀全次天德院

勝 姫君

慶長六辛丑年於江戸城御誕生

御皇様内腹同十六辛亥年越前守相正江

嫁三九月八日江戸御出立同月廿八日越前國福井江

御入于時十一歳元和九年五月二日忠直江

依御勘氣豊後國萩原江配流依江姫君并内嫡

先長ト共ニ六月越前ヲ登レテ七月江戸ニ被着
高田ノ屋敷ニ移リ住居高田様ト号寛文
十二年二月廿一日ヲ逝去御年七十二歳
西久保天徳寺ニ葬ル

御法名

天崇院殿穂誉恭安豊壽大善女人

西久保 天徳寺

御男子仙千代君後越後中将先長ト号忠直郎八
文祿四乙未年ヲ下野國結城ニ誕生シ父秀原郎

御母結城晴朝ノ女ニ昌龍院殿ト号慶長十六年

三月廿日ヲ御前ニ元服シ四位下ニ左近衛権方將ト

任三河守ト改元和元乙卯年六月十九日ニ三位宰相ト

寛永元甲子年五月二日ニ萩原ト同國津守ニ移ル

氏扶持五千石給刺髪一伯ト号日根野織部正高吉警固之

牧野傳藏目付役蒙之慶安三庚寅年九月十日

津守ト於テ卒去五十六歳御法号西岩院殿相譽速友

大居士ト号津守ノ男子ト前人女子ト吉人出生永見

伊豫守長頼永見大藏長良ノ女子ト於テカト去後

先長家臣妻ト成幼名慶長丸ト号

長丸君

慶長六辛丑年 於江戸 城御誕生御母公
家女同七壬寅年九月廿五日御逝去御年二歳
御法名 秋徳院殿美嶺容公大章子

初姫 居

慶長七壬寅年 於江戸 城御誕生 五月十日
御臺様御腹京極若狭守少忠高江嫁以

寛永七庚午年三月四日御逝去御年二十九歳

小石川傳通院 正葬九

御法名 真母院殿豊譽天清陽山大師

小石川 傳通院

家光 公

慶長九甲辰年七月十七日 於江戸 西丸城御誕生

御童名 竹千代 居

御臺様 御腹元和六庚申年御十七歳正月五日從三位

叙同月十一日正三位権大納言任同九癸亥年御三歳

三月十五日兼右近衛大将右馬寮御監同七月十三日

御上洛同月廿七日 將軍 宣下正二位内大臣淳和

并學西院別當源氏長者征夷大將軍、任牛車
兵杖賜寬永三丙寅年 御廿三歲六月 御上洛

同八月十八日參内從一位左大臣、任同九月六日

帝二條亭 行幸有十日還幸同九壬甲年

御廿九歲二月廿六日一統 御遣金被下同十月四日紅葉山

御造管子而始而 御佛殿 御朱詣同十癸酉年

御三十歲二月七日兩御番大御番一統二百石充御加增

有之同十甲戌年 御三十一歲二月九日國持大名江

御鷹、鶴御料理被下一人充被召出御有被下

同六月廿日 御上洛首途同七月十日 御上洛

十六日十七日兩度

勅使太政大臣、任 御辭退同月廿三日江戸西丸

豐上同閏七月京都諸町人江銀五十貫目ヲ賜フ

同十二亥年 御三十二歲十一月十五日始テ老中、月番ヲ

定同年十二月二日駿府城及天守豊上同十三丙子年

御三十三歲四月十三日日光 御發駕十七日 御社車馬角

一雙

東照宮、庫裏、納之同十一月 朝鮮人來朝同十四

丁七年 御三十四歲 八月廿七日 御奉凡御移徒同年

十一月 肥前國嶋原一揆起切支丹京頭天草

四郎時貞類賊女童共三四万餘嶋原城、搦籠
是、為誅伐板倉内膳正重昌發向同年十二月
廿日初軍落城及數日依、松平伊豆守信經戸田
左門氏鉄發向外九州、國主城主、軍出陣
十二万四千餘、兵、以攻翌十五戊寅年正月朔日
重昌戰死同二月廿七日己、下剋落城廿八日悉、
責城之討取所九三万七千余人味方、七十月廿日
初軍正月元日、夜討又落城、砌廿七、八都合、負
死人一万三千余人同十六己卯年 御三十七歲八月
十一月 御本九 上同十七庚辰年 御三十七歲 四月音

御本九 御 移同、月十三日日光 御發駕

同十九壬午年 御三十九歲 四月十三日日光

御發駕同二十癸未年 御四十歲 朝鮮人來朝

慶安 御四十八歲 四月廿日

御他畏 下野國日光山、葬

殉死、臣

堀田加賀守正盛

阿部對馬守直次

内田信濃守正信

三枝土佐守

奥山茂左衛門

御法名 大猷院殿贈正一位大相國公

日光山 龍光院
東漸院

御臺所

鷹司前関自信房公姫君中ノ丸様卜号慶長

七壬寅年 御誕生元和九癸亥年十二月廿日

御入興寛永二乙丑年八月九日御婚姻即日

御臺様卜可奉祢旨被仰出慶安四年

四月廿日 蒙御後御落 本理院様卜奉祢延室

二甲寅年六月八日 御逝去小石川傳通院葬

御年七十三歳 本理院殿照譽圓覺微心大姉

御法名 本理院殿照譽圓覺微心大姉

御逝去小石川傳通院

御妾旅夏一方 京都町人 弥市郎 後藤枝 攝津守

直昌女

御臺様所 附奥勤京越下 下向長松君在

産天和三癸亥年七月廿九日逝去七十歳 浅草

幸龍寺、葬也

御法名所順性院殿妙法日圓大師

淡草 幸龍寺

御幸於萬一方六條宰相藤原有純女伊勢

内宮社僧慶光院比丘尼任職永光院号

御目見出府還俗之梅ノ有卜号有純舍弟六條

藤右衛門新知十石其後加增十石給戸田中務

大輔卜号高家勤役也

御部屋於國一方二條関白平公家司奉庄

太郎兵衛宗正継女實七京都堀川通西藪町

八百屋仁左衛門娘六條宰相有純ノ女梅香ノ

縁を以奥勤徳松君を産後

綱吉公館林御符領白山御殿江御移延室

八庚申年十一月十二日三ノ九江御入貞享二

乙丑年從三位叙元禄九丙子年正月

十三日七十御賀祝同十五壬午年三月九日

從一位叙皇永二乙酉年六月廿二日於三十九
御逝去御年八十五歲 增上寺江葬

御法名 桂昌院殿從一位仁譽與國惠光大姉
臨寺公願林御拜殿 白山 御別當佛心院

御部屋於樂方初於蘭朝倉次次郎家奉
朝倉惣兵衛娘故有子母子上り物成永井
信濃守家奉七次作右衛門養女於蘭被

召出與勤 竹千代君之産後從三位叙兼應
元壬辰年十二月二日逝去葬東叡山兄增山氏
新田地也

御法名 皇樹院殿贈二位萃城天栄大姉
卷籍式出齋中 臨請實 御別當子勸善院

御部屋於振方元蒲生飛彈守氏卿家奉
後浪人里半兵衛重政女所野長門守幸和
養女寛永年中與勤 千代君之産同
十七庚辰年八月廿八日逝去

御法名 自證院殿克山曉桂大姉
市ヶ谷 自證院

忠長卿

慶長十丙午年五月七日於江戸城御誕生

御童名國千代丸又門松丸

御躰様御腹元和三年任濃國小諸城

附十五石給同四戊午年甲斐國一圓賜

從四位少將任同六庚申年八月廿二日任

參議左近衛權中納言寬永二乙七年正月

十日駿州遠州兩國加賜五十五方石駿府城

居同三丙寅年八月廿日任從二位大納言

駿河大納言上祿同七庚午年上月大逆不道

依_テ甲州江_ニ蟄居同八辛未年九月上州高崎

城主安藤右近進重長江御預同十癸酉年

十二月六日於高崎大進寺御生害御年二十九歲

同寺_ニ葬

御法名 峯巖院殿清殿曉雲大居士

上州高崎 大進寺

御簾中_ハ織田兵部大輔信昌_ノ姉_ト生害

後竹橋清殿別_ニ生害_ヲ搆刺髮

北丸殿卜号

御法名 光松院殿

東福門院

慶長十二丁未年十月四日於江戸城内誕生

御臺様 御腹 只國女元和七辛酉年六月

十八日有御入内禮身重御新同寸空御

後水尾院女御同九癸亥年十二月十九日

姫宮大御降誕 眞野子奉祚寛永元甲子年

十月廿八日 立為皇后同六乙巳年十月八日

姫宮 御受禪、依

東福門院卜奉祚延宝六戊午年六月十五日

崩御御宝筭七拾二歳洛陽泉涌寺奉葬

東福門院皇太后源和子卜奉號

京都東山 泉涌寺

心之

慶長十六辛亥年五月七日武州足高郡大昌木村而

内誕生内母公於静方童名幸松丸信州高遠

保利彈正忠正光之養子寬永六己巳年給
新地同九壬申年十二月廿八日任從四位下肥後守
同十一甲戌年七月十六日任侍從同十三丙子年
七月廿一日出羽山形城附二十万石給正保元申年
奥州會津城二十三万石給小同二乙酉年四月
廿一日從四位上九近衛權少將任兼應二癸巳年
十月十三日正四位右近衛左中將任寬文九己酉年
四月廿七日隱居同十二壬子年十二月十八日逝去
享年六十二歲

法号無之祝祭ハニツ土津神社

御養女

實ハ加藤肥後守忠廣室

御養女

實ハ伊達陸奥守忠宗室

御養女

實ハ毛利長門守秀就室

龜姫君

寶永八水戸中納言頼房御内娘寛永九壬申年

十二月十三日為内養女加賀少將松平筑前守光高江

内縁組同十癸酉年十二月五日内入奥正保

二乙酉年复克高頓死後清泰院殿卜号

明曆二丙申年九月廿三日内逝去丙午年三十歳

小石川傳通院江葬

御法名 清泰院殿法誓性栄大姉

小石川傳通院

十代姫君

寛永十四乙巳年閏三月五日御誕生御母公

旅振方同十六巳亥年九月廿一日尼張

大納言克女御江内縁組被仰出正保二乙酉年

御入奥同四丁亥年十二月廿九日内婚姻元禄

十一戊寅年十二月十日内逝去丙午年六十二歳

増上寺江葬

御法名 聖仙院殿長譽松月慈光大姉

御別當 松蓮社

家細公

寬永十八辛巳年八月三日於御本丸御誕生

御童名竹千代君 御母公於樂一方御誕生節

墓目酒井河内守矢取同萬千代御篋刀役戶田

丸門同二十一癸未年 御三歲 正月十一日 御髮置

同七月廿五日二九江 御移徙正保元甲申年

御四歲 十一月七日 御名被進祿

家細公同二乙酉年 御五歲 正月三日 御袴着

初同四月廿三日 御元服加冠八彦根中將井伊

掃部頭並孝理髮會津中將保科肥後守心之也

將軍家加冠理髮始于此同日從三位權大納言

任即日心三位叙西九 御移徙同十月三日井伊

掃部頭亭正初而 御成慶安元 戊子年 御八歲

三月五日始御中刺内祝同二己巳年 御九歲 四月

十月日克 御發駕十七日 御社祭同三庚寅年

御十歲 六月六日二九江 御移同年九月廿日西九江

御移徙同四辛卯年 御十一歲 七月廿六日由井

正雪氏仕並同年八月十八日將軍

宣下征夷大將軍右近衛大將右馬寮御監

淳和集字西院別當源氏長者牛車兵杖賜

正二位内大臣任同十二月廿八日西九月

御奉九江御移徙兼應二癸巳年 御十三歲 七月

十月任右大臣明曆元乙未年 御十五歲九月朝

鮮人奉朝同二丙申年 御十六歲 五月十三日

御額直御袖留有一同三丁酉年 御十七歲

正月十八日十九日江戸大火十九日

御奉九上西丸無別条依江戸西丸江御移徙

同年大火依江戸諸町人江戸自銀二万貫目

賜了万治二己亥年 御十九歲 正月十一日被為執

御前髮同年四月廿八日可任九大臣者雖有

勅御辭退被仰進同年九月五日

御奉九造管成御移徙同三庚子年 御三歲

六月攝州大坂城雷火寛文三癸卯年 御三歲

四月

大猷院様十三回御忌三付同月十三日日光

御發駕同五乙巳年 御二十五歲 大坂天守雷火

同九己酉年 御二十九歲 六月 蝦夷人一揆同九月

静謐延宝八庚申年 御四十歲 五月八日

御他界奉葬東叡山同年六月十二日

勅號

御法名 巖有院殿贈正一位大相國公尊儀

東叡山院号、圓純院卜方、御實子無、

御別當 津梁院

御別當 津梁院

御別當 津梁院

御墓所 巖有院殿贈正一位大相國公尊儀

二品式部卿伏見宮貞清親王、姫宮、浅宮卜号明曆

三丁酉年七月十日御入真、御出生無、延宝四丙辰年

八月五日御逝去、御年三十八歳、東叡山、葬、

御法名 高巖院殿從一位月潤圓心大姉

御別當 春性院

御別當 春性院

御別當 春性院

龜松局

寬永二十癸未年二月廿九日內誕生、正保二乙酉年

九月十日御宮余同、四丁亥年八月四日內逝去、丙午

五歳、小石川傳通院、葬

御法名 月演院殿花玉尊、宗大童子

小石川 傳通院

細重御

正保元甲申年五月廿五日御誕生御童名長松局母公
於夏一方

家光公四十二御二子故 天樹院殿御子分、被成
彼御所、而御養六月慶安二己巳年九月廿三日櫻田

御殿被進 御入同土月九月竹橋 御殿御移 徙

同四辛卯年四月三日甲府十五万石給兼應二癸巳年

八月十日 從四位下左馬頭左近衛權中將、任

御一字被下 細重御 改同十月七日正三位叙明曆

三丁酉年七月廿七日櫻田 御殿御移 徙寬文

元辛巳年閏八月九月甲州府中拾万石内加恩給

二十五万石、成同十二月廿八日參議、任延享六戊午年九月

廿四日御年三十五歲而御逝去江府妙長山幸龍寺

葬元禄十二己卯年起改增上寺廿築所女實文

御法号 清揚院殿贈正二位内大臣圓譽大安永知

大居士

寬永六己巳年閏八月十三日贈征夷大將軍正一位

大政大臣

御別當 通玄院

御簾中二條関白従一位前左大臣光平公婚右
寛文九己酉年五月十四日内逝去小石川傳通院
葬

御法名 崇院殿理廊良智大禪定尼

小石川 傳通院

御再録御簾中綾小路中納言俊景御女寛文
十庚戌年七月廿日櫻田御殿江御入樂内婚姻内
十三癸丑年八月二日内逝去西久保天徳寺葬

御法名 紅玉院殿

西久保 天徳寺

御部屋於保良一方田中治兵衛卜去所人娘之

天樹院殿奥勤松坂ノ局部屋方、勤

細直公、天樹院殿ノ養分、松坂ノ局ノ部屋、而

清盛長於保良一方寛文二壬寅年四月廿五日

虎松局之産後

文昭院殿也同回甲辰年懐胎輕上越智与右馬門

去專、被下産後同年二月廿八日死去出生成長後

松平右近將監清武正号於保良一方専光院殿号

後長昌院殿谷中善性寺江蘇御年二十八歲
寶永二年十月十二日東叡山江蘇改謚有

御法名長昌院殿三位大岳台光大師

別當 林光院

大猷院殿才三御子

大猷院殿才三御子

德松君

德川右馬頭殿

細吉公

館林宰相殿

正保三丙戌年正月八日外刻於江戸城御誕生

御幼名德松君 御母公於國方同年六月六日

御宮系同四丁亥年十一月八日 御髮墨慶安元年

九月廿八日二九月廿三九江御入同三庚寅年正月廿六日

御袴着初同四年四月廿三日 御賄料十萬石

被進同年七月五日 神田橋御殿被進御移徙同年

十月上州館林拾五万石給兼應二癸七年八月

十二日從四位下左近衛權中將右馬頭任

清一字被下 細吉御之改同十月七日正三位、叙明曆

三丁酉年正月十九日 御殿類焼、依、竹橋御殿

御入同年九月廿八日 神田御殿御移徙万治三年

四月十一日 御痘瘡御酒湯御祝儀寛文元年

閏八月九日上州館林城附二十五万石給同年十一月

廿八日參議、任同年十一月十九四日御袖留同二年寅年

十二月十八日執事前發延寶八庚申年五月六日御登

城侍退出無一翌七日廿九同日十月廿三日御登

家綱公御養君、被源出即日正二位權大納言小

任西九下被為入同年七月十日御奉九江御移同年

八月廿三日將軍、宣下右近衛大將征夷大將軍、任

淳和特學兩院別當源氏長者牛車兵杖賜正二位

內大臣、任貞享元甲子年十一月九日四十御賀祝

寶永二乙酉年三月五日任右大臣同六己丑年正月

十月御他具、佛年六十四歲奉葬東叡山同年

二月十六日勅號為史年許面看史前年

御法名、帝憲院殿贈正一位大相國公御

常島前林御別當大慈院

同十庚申年十二月御岳蓮社

御臺所御日許謀御實支年御中御卦昌新林所

鷹司閨白房輔公婚君從姫君卜号寬文四

甲辰年九月廿一日從京都神田御殿江御入樂

延寶八庚申年九月四日御奉九江御入寶永六

己丑年二月九日山逝去葬東叡山

御法名 淨光院殿從一位圓峯心珠大姉

御別當 觀成院

御部屋於傳方五九方里鉄者小屋権兵衛
女後堀田將監下改寛文中 桂昌院様附

同十庚戌年十二歳而

常憲院様所附延寶五丁巳年四月八日白山御殿而

鶴姫君産同七己未年五月六日於神田御殿

徳松君産同八庚申年將軍宣下後

御家様上祿元禄七甲戌年七月朔日五九様上号

寶永六己巳年 蕨御後落 瑞春院殿上号

同年四月三ノ九日御入三九様上号 元文三戊午年

六月九日旅同所出逝去年八十一歳増上寺に葬

御法名 瑞春院殿列卷涼地大禪定尼

御別當 岳蓮社

御部屋大典侍清閑寺家從四位上左中將定俊

女白當内侍、此処被召寄大奥、而大助殿上祿レ

登九殿上号竹橋御殿内御入

常憲院様蕨御 後壽光院殿上号馬場先御内

御用屋敷に御入内住居類焼後濱内殿内住居
寛保元辛酉年十月十二日於同所内逝去増上寺に
葬

御法名 壽光院殿

御部屋新助方豊匡大藏持大補女室永六己亡年
正月十八日落飾清心院上号故有入享保二酉年
飯田所橋木坂新内屋敷蟄居添番一人伊賀老
一人附有元文四己未年十一月十九日於同所
死去 谷中大圓寺葬

御法名 清心院殿

鶴松君

正保四丁亥年正月十日御誕生慶安元戊子年
七月四日内逝去享年二歳西久保天徳寺葬

御法名 齡真院殿利真童子

西久保 天徳寺

鸕姬君

延寶五丁巳年四月八日不十五於白山御殿誕生母公

於傳一方同八巳申年七月十日 御本九巳

御入天和元辛酉年七月十日紀伊從三位權

中納言細敷御以內綠組貞享二乙七年二月廿日

御入樂宝永元甲申年四月十二日內逝去 御年三十八歲

增上寺 江蘇

御法名 明信院殿澄誓 顏光耀大姉

別當 鑑蓮社

德松君

延寶七乙未年五月六日於神田御殿誕生母公

於傳一方八月十三日山王御宮東大興御入

初而御目見同八庚申年十月十五日不廿七日神田御殿

西九巳御入天和元辛酉年十一月十五日御駿置同

三癸亥年閏五月廿八日御早世御年五歲增上寺

葬

御法名 淨徳院殿靈嶽崇心大童子

岳蓮社

八重姫君

實、鷹司左大臣兼源公姫君

清皇様御、御養女被、仰出元禄四

辛未年九月十五日京都、御下向干時三歳之

同十七年四月十八日御縁組被、仰出同十一

戊寅年六月十三日水戸少将吉幸御に嫁自白

屋敷に御入後根津屋敷に御入室永六己七年

水戸吉幸御逝去後落飾養仙院殿下号延享

三丙寅年三月十七日於同所に逝去御年五十七歳

於東叡山に葬

御法名 隨性院殿

内別當

喜知姫君

實、八尾張権中納言綱誠御息女二歳時元禄

十二寅年三月十八日尾張殿亭に御成清養女

有御約京同年四月二日御奉立に御入同年

七月七日に逝去御年三歳小石川傳通院に葬

御法名 智法院殿

小石川 傳通院

松姬君

初儀姬君

實八尾張中納言網誠卿女宝永五戊子年三月

廿七日為御養女同四月九日加賀大守松平若狹守

御縁組同年十一月十八日傳入藥享保五庚子年

九月廿日內逝去小石川傳通院江葬傳年三十二

御法名光現院殿鏡譽圓清大師

小石川傳通院

竹姬君

實八清閑寺大納言燕定卿女壽光院殿母為

御養女宝永五戊子年七月廿五日肥後守嫡子

松平久千代江内縁組十二月久千代早世傳入藥無八

後同七庚寅年八月十九日有柵川宮阿斗宮江

有柵川宮薨去御入藥無一後享保年中

吉宗公為御養女同十四己酉年六月四日松平

大隅守継高江内縁組同年十二月十一日傳入藥

宝曆十庚辰年十月廿九日継高逝去二付称

淨岸院殿安永元壬辰年十二月五日內逝去

淨岸院殿安永元壬辰年十二月五日內逝去

薩州鹿見嶋福昌寺葬

御法名 淨岸院殿

薩摩鹿見島福昌寺

清揚院殿細重公御子

新見友近

松平虎松

徳川友近將監

家 宣 公

甲府中納言

初繼豊公

寛文二壬寅年四月廿五日於根津御殿御誕生

御幼名虎松居清母公旅保良方後長昌院殿

初新見備中守養三十九日新見友近十号同

十庚戌年七月九日御入侍對面九近殿

細吉公新見備中守院取御入侍對面九近殿

後是松平虎松殿之被称御嫡子被立同十一

辛亥年十二月十五日平川口御屋敷御登

城御目見同十三癸七年正月三日御表

御登五城年始侍礼延宝四年辰年十二月十二日

御元服従三位右近衛權中將御一字被下

細豊御十段称友近將監同五丁巳年十一月朔日

御袖留御額墨同六戊午年十月廿音侍父

細重御内家督以上使被遣同十年十二月

十二月内合刀内加増賜五万俵被遣同廿一日被為執

前髮延室八庚申年八月十八日參議任同九月
六日正三位同月十六日十萬石加恩都合三拾
五万石成元祿三庚午年十二月十五日任權
中納言同十七年十一月十日
常憲院殿始櫻田御成室永元甲辰年
二月五日四十三歲而
常憲院殿為御養君櫻田御殿西九
清入內附家奉家人成同年正月九日被改
家宣公十同廿一日始而清禮被為請同二乙酉年
三月五日正二位權大納言任同六月廿七歲四十八歲
正月十日御家督御相續同月廿一日與諸衆
御免二月廿一日御本丸與勤之面八寄合小普請以
入御廊下番同斷四月二日三日五日同御代替
御禮同六月御旗本惣領七百三十人被召出番入
同年五月朔日將軍日宣下御付而御本丸御入
內大臣任淳和柒學西院別當源氏長者牛車
兵杖賜西九還御六月六日室永銀通用九月
廿三日於吹上番方之面八大的上覽同廿六日
於此同惣番衆乘馬上覽同廿七日弓馬相勤
以番衆三百廿二人以黃金壹枚充被下十月廿九日

燒火間番百四人大御番惣組に割入成元十月
二日御奉九江御彩宝永七庚寅年二月十日
芝口御門御普請四月十五日武家諸法度被
仰出十月廿一日舞樂 上覽十月十日琉球人
御礼正月十七日末末年

東照宮百回御忌二件日光江御社年可有旨被
仰出正徳元辛卯年三月廿三日於濱御殿天地丸
御船 上覽十月朔日朝鮮人御礼同二壬辰年

四月十九日万石以上領知之
御朱印改被下 同十月十四日御年五十一歳

御他界十一月二日増上寺禁同 八日勅使御贈官位

御法名 文昭院殿贈正一位大相國公

御別當 真乘院

御皇所 天華新題

近衛閑白基熙公ノ姫君照姫君下号延宝

七己未年六月十九日出縁組十二月朔日櫻田御殿江

御着御入興 同十八日法婚 姻宝永元甲申年

十二月五日西九江御入同六己未年 六月十九日從三位

十一月二日御奉九江御入正徳二壬辰年十月廿日

薨御後落 天英院殿卜号同三癸巳年

四月二日從一位、任一位様上称享保二丁酉年

十二月十五日西九江御入 同十六辛亥年九月

廿七月二九江御入寬保元辛酉年二月廿八月

於御同所御逝去 佛年八十 増上寺に葬

御法名 天英院殿

御別當 最勝院

御部屋於喜世上方後在京上改勝田玄哲
娘浅草唯念寺入寺中林昌軒住持也大内番

矢嶋治大夫娘介櫻田御殿奥勤室永六七年

七月二日鍋松君ノ産三、御部屋卜号在京上改

正徳二壬辰年十月廿七日薨御落飾月光院殿

号吹上御庭に御移同三癸巳年十一月十三日

從三位、任宝曆二壬申年九月十九日於同所逝去

増上寺葬文 政土戊子年二月朔日贈從二位

御法名 月光院殿

御別當 佛心院

御部屋於須免上方園中納言家朝ノ女

一橋司内大臣從一位藤原隆賀御女

御臺様所供而下向奥勤大助殿と称又二ノ
御部屋云々大五郎君上虎松君ヲ産正徳二壬辰年
十月薨御後落飾蓮淨院殿号馬場先御用
屋敷住居享保十七壬子年十二月十一日濱御殿内
住居明和九壬辰年四月十八日逝去御城内斗
二三日殿中鳴物遠慮東叡山葬

御法名 蓮淨院殿

御別當 林光院

御部屋右近方太田内記女一向宗僧道哲号

後還俗一ノ内部屋卜称家十代君ヲ産正徳二壬辰年

十月廿日落飾法心院殿卜号

馬場先内用屋敷住居享保十七壬子年十二月

十二日濱御殿内引移明和三丙戌年六月二日

内逝去御年八十五歳御城内斗鳴物二三日遠慮

東叡山葬

御法名 法心院殿

御別當 林光院

豊姫君

天和元辛酉年八月廿六日於櫻田御殿内誕生
御母公天英院殿同二壬戌年十月廿一日於
内同所乃逝去二本榎三行寺葬後改葬小梅
常泉寺

御法名 命妙敬日信

十二日於南院殿内御誕生於小梅常泉寺

是日夫九月至連日對武吉野野子壬午年十二月

御男子

元禄十二己卯年九月十八日於櫻田御殿内誕生

御母公天英院殿即日御逝去小梅常泉寺葬

大正御法名 夢月院殿

小梅 常泉寺

政姫君

寶永近衛家照公姫君元禄十六癸未年土月

四日櫻田内館内御着室永元甲申年七月

朔日乃逝去小梅常泉寺葬

御法名 本兼院殿

小梅 常泉寺

家千代君

宝永四丁亥年七月十日於西丸御誕生内母公

右近方同年九月廿八日於同所内逝去小石川

傳通院御葬鳴物七月普請音停止

御法名 智幼院殿

小石川 傳通院

大五郎君

宝永五戊子年十二月廿二日於西丸御誕生御母公

於吹免方同六己丑年十一月二日御同所逝去

御本丸御移徙同七庚寅年八月十二日逝去

小石川傳通院御葬同所御母公

御法名 理山院殿

小石川傳通院

文昭院殿才三御子

家継公

世良田鍋松君

宝永六己丑年七月三日於西丸御誕生 御童名

世良田鍋松君卜号 御母公於喜世方同年

十二月四日移 御本九同七庚寅年七月廿五日

御髮鬘 同年九月三日根津權現江

御社系正德二丑辰年十月 御家督 御相續

同十二月十八日 御代替 清祀同月廿五日從二位

權大納言任

家継公卜稱 勅使下向無以宿次傳

宣命同癸巳年正月四日 御袴著初同年

三月十六日 御元服同年四月二日將軍

宣下正二位内大臣右近衛大將任淳和集學

西院別當源氏長者牛車兵杖賜同四年

九月十八日新金銀通用同年十二月二日琉球人

御礼同六丙午年正月

靈元帝姬宮八十宮御縁組被 仰出干時三歲

依御結納被進阿部豐後守正喬上京同年

四月晦日 御他見御歲八歲 増上寺奉葬

五月七日 御出棺同月廿五日 御贈官儀

御法名 有章院殿贈正一位大相國公

御別當 通玄院

御簾中

靈元帝之姪宮八十宮正德五乙未年十月十六日
御結組御弘同六丙申年二月八日御結納然也
依蕨御御下向無之為合刀米五百俵元年
被進享保十一丙午年十一月廿八日親王宣下被称
吉子内親王宝曆八戊寅年九月廿二日蕨御
御壽四十五
御法名淨琳院殿
泉涌寺

虎吉君

正德元年卯年八月廿六日御誕生之御母公

於所免之方同集五月六月也逝去西久保天德寺

葬表面其秋无

御法名俊覺院殿

西久保保天德寺

紀伊權大納言光貞御三男

吉宗公

源六君

又新之助君

松平主殿頭

貞享元年甲子年十月廿一日於紀州和歌山御誕生

御童名源六君又新、助殿御実父紀伊從二位
大納言光定卿、御三男、御母公、巨勢六左衛門
後伊豆守女也、光定卿、宝永二乙酉年八月
八日逝去、清溪院殿卜号紀伊江葬、御養父、
實兄内藏頭頼職也、右御家督初主祝頭
頼方元禄八乙亥年二月、江府江御著同九
丙子年四月初、御目見十二月十一日從四位下
少將同十丁丑年四月十日新知三万石被下
同土戌寅年三月廿七日御袖留同十二巳卯年
七月六日執、御前髮宝永二乙酉年十月六日

紀乃次家、御繼有立赤坂館、任同年十二月
朔日於、御奉丸元服從三位權中將、任此
吉宗、御下被改同三丙戌年十一月廿六日参議、任
同丁亥年十一月十八日權中納言、任同七庚寅年
四月十九日初、御暇正徳二壬辰年四月、伊勢
御集宮同六丙甲年四月、晦日依、御遺言二九江
御入、御後見同年五月朔日天下、御相續被
仰出同月二日奉祢
上様同月廿二日、御奉丸江、御入乃供、面々
御家人被、召出同年六月廿日半藏口竹橋

田安清 水口門津末 御免 同月廿六日廿七日

廿八日 御代 替 御礼 同年七月朔日享保

改元 同年八月十三日

將軍 宣下 被叙 正二位 權大納言 被捕 淳和

禁學 西院 別當 源氏 長者 征夷 大將軍 兼

右近衛 大將 右馬寮 御監 被任 內大臣 大將 故

聽牛車 賜隨身 兵杖 宣命 使德大寺 從位

尹重庭 田大納言 重條 享保 二丁酉年 三月十日

武家 諸法度 被仰出 同年八月十日領地

御朱印 被下 同三戌戌年 同十月廿八日 乾金

通用 止 同年 十月十三日 琉球人 御礼 同四寅年

六月 十五月初 而小普請 組又配 被仰付 同年

十月 朔日 朝鮮人 三使 御礼 同五庚子年

三月 廿七日 東叡山

大猷院 殿 御靈屋 上再建 無

上殿 有院 殿 御相殿 成同 六年 四月四日

於吹上 三奉行 公事 裁許 上聽 同年 六月

二日 豆州 下田 奉行 相止 相州 浦賀 奉行 被仰付

同月 五日 諸內 番方 十年 皆勤 內褒美 被下 同年

八月 二日 初而 評定所 評狀 出同 七壬寅年 三月

廿八日於産田追邊持同年四月晦日

有章院殿七回御忌 勅會御法事

御辭退万部御法會相止以後千部御經以

御法事 同年十二月廿六日

東照宮御誕生支 御相當御祝同八癸卯年

六月十八日諸役人役高御定同年十月三日於

場野騎馬辨子被 仰付為永式同九甲辰年

正月晦日芝口市門上同年七月三日始而甲府

勤番支配被 仰付同月廿六日部屋住老

新規被 召出番番入同年八月十三日甲府

勤番士被 仰付同十二月廿七年三月廿七日小令京

清物同土丙午年二月廿七日同改同土丁未年三月

朔日於平塚明神前祿射 上覽同年八月十四日

於吹上御庭兩所番大内番大的 上覽始同十三成申年

四月十三日日光 御社年同十六日日光 御着同廿七日

清社年同十八日 清教駕同廿日江府 御着同

十五庚戌年正月十日於吹上御庭初而帶佩大的

上覽有之為永式同二十乙卯年五月十一日天下

以一統支于御相當清祝御能同年九月晦日

舞樂 上覽元文元丙辰年五月十日新金銀

通用被 仰出同 三戊午年九月十八日管絃

御聽問同年十月廿六日御射留多法料理被下

寬保元辛酉年八月七日 御轉任右大臣 延享

元甲子年十二月七日御奉日鳥御料理被下

二乙丑年三月十七日於紅葉山

御宮法華八講御執行同年九月朔日

御讓職 御隱居儀被 仰出從此日被称

御隱居様同廿五日西九御移奉称

大御所様寬延四年六月廿日於内所黃御

御年六十八歲奉葬 東叡山同年閏六月十日御出棺

同夜 御送葬 七月三日 勅設清贈官位

御法名 有德院殿贈正一位大相國公

御別當 大慈院

御公放由利方巨勢伊豆守女享保三戌戌年

五月朔日從和歌山 下向二九日御入同土 丙午年

六月九日於同所以逝去 御年七十一歲 東叡山葬

御本丸五十月 御忌同月十六日 御出棺此日 御送葬

從翌日 普請七日 鳴物三日 侍正室曆 十三癸未年四月十六日贈三位

御法名 淨圓院殿

御別當 福聚院

御簾中

伏見文仁親王姐宮貞宮御方室永三百年

三月十一日京都御發駕同月廿七日赤坂館記

御入同年九月廿五日御縁組被仰出同年十月

朔日御婚姻同七月庚寅年六月四日赤坂館記

御逝去蘇池上奉門寺

室曆十三癸未年四月十六日
贈從三位

御法名基寬德院殿玄真日中大姉

御本式入于蘇池上奉門寺

御時氣治久入谷口身式蘇門心水

御部屋於須磨方紀伊殿家末大久保八郎五郎

後伊勢守忠舊女正徳元辛卯年

長福君又産同三癸巳年十月廿四日於赤坂館

内逝去池上奉門寺葬 室曆十三癸未年四月十六日

贈從三位

池上 奉門寺

上野 福聚院

御部屋於古年一方竹本茂兵衛正長女享保

元丙申年 御本丸江入于後称御部屋様

同八癸卯年二月廿一日於御本丸江逝去葬

池上本門寺以同月廿三日御出棺此日御送葬

停止無相慎様
被仰出

御法名 本徳院殿妙亮日秀大姉

本門寺

御部屋於久一方谷口長右衛門正次女享保元丙申

御本丸江入于後称御内證御方同四己亥年

十五日小五郎君産同年十月七日於

御本丸江逝去葬上野凌雲院

御法名 深心院殿 漂性水大姉

上野 凌雲院

御部屋於久免一方紀伊殿家来稻葉弥藏女

享保六年七月七日芳姫君産

吉宗公薨御後落 覺樹院殿卜号櫻田

内用屋敷住居安永六丁酉年十一月廿八日逝去

御部屋於古年一方竹本茂兵衛正長女享保

元丙申年 御本丸江入于後称御部屋様

同八癸卯年二月廿一日於御本丸江逝去葬

池上本門寺以同月廿三日 御出棺此日御送葬

停止無相慎標
被仰出

御法名 本徳院殿妙亮日秀大姉

於本門寺 池上本門寺

御部屋於古年一方竹本茂兵衛正長女享保

三月十四日源三君之産又同六辛丑年閏七月

十五日小五郎君之産同年十月七日於

御本丸江逝去葬上野凌雲院

御法名 深心院殿 漂性水大姉

上野 凌雲院

御部屋於久免一方紀伊殿家来稻葉弥藏女

享保六年七月七日芳姫君之産

吉宗公薨御後落 覺樹院殿卜号櫻田

内用屋敷住居安永六丁酉年十一月廿八日逝去

葬小石川傳通院

御法名 教樹院殿

小石川 傳通院

有德院殿吉宗公世子
御實母深德院殿

家重公 長福君

正徳元年辛卯年十二月廿一日於紀州家赤坂之館

御誕生 御幼名長福君御母公大久保八郎五郎

後伊勢守忠舊ノ女同二壬辰年二月十日氷川社

御宮系同三癸巳年九月十一日御髪置同五

乙未年十一月十一日 御袴著始享保元丙申年八月

四月二十九日 御入同九甲辰年十一月十五日

若眉様々奉祢御附被 仰付同月廿日始

諸士御礼同年十二月朔日被進 御講同十

乙巳年四月九日 御元服從二位權大納言仕加尉

井伊掃部頭理髮松平肥後守同年同月四日

成鷹野龜井戸隅田川邊 初而 御成同年六月

十九日從二九西九日 御移徙同十一丙午年五月十五日

御袖冑同十二丁未年十一月十五日被執 御前髪

同十三戊申年三月三日御疮瘡同月十一日

御酒湯同十五庚戌年十二月五日御麻疹

御酒湯元文元西辰年十一月四日初而小菅江

御止宿寬保元辛酉年八月七日被兼右近衛

大将被補右馬寮御監延享二乙丑年九月朔日

御政務侍御讓請給同月廿五日御奉丸江

御衫從此日

上様衣祓十月朔日御代替法礼十一月二日

將軍兼宣下被補征夷大將軍淳和特字西院

別當源氏長者に叙心三位任内大臣右馬寮御監

大將如故轆牛車賜隨身兵杖同三癸亥年

三月廿一日廿二日武家諸法度被仰出同年

十月十一日十二日領知入

御朱印被下之同四丁卯年四月十六日二九上

寬延元戊辰年六月朔日朝鮮人御礼

同年十二月十五日琉球人法礼宝曆二壬申年

十二月十五日琉球人法礼同四甲戌年十一月

十五日頒新上同七丁世年九月四日紅葉山

生養芝被献

御官同十庚辰年二月四日御轉任右大臣

同年三月廿三日五十一御賀同年四月朔日

御辞職五月十二日二十九日御入奉祚

大御所様同十一辛巳年六月十二日於御同所

奠御 御年五十一歳 七月十日御出棺同夜

御送葬増上寺七月廿四日

勅謚御贈官位

御法名 惇信院殿贈正一位大相國公

御別當 瑞蓮院

御

伏見兵部卿二品知永親王、姫宮北宮御方享保

十六辛亥年五月七日從京都御下向西九

御入同六月十八日御縁組御弘六月十八日

御結納同年十二月十五日於西九御婚姻祚

御簾中様同十七壬子年九月廿一日御乘船

隅田川御遊覽同十八癸丑年十月三日

御逝去 鳴物十日 普請五日 同月十三日御出棺御送葬

東叡山贈從二位 十二月廿五日御贈位 從京都大内春西人 持束於柳之間 松平伊豆守請取

御法名 證明院殿

御別當 春性院

御部屋於幸方梅後二位前權中納言道保

御女比官御方仕與勤元文二丁巳年五月

廿二日於西九竹千代君產同月廿八日御部屋様

可祢音被仰出寛保元辛酉年六月廿日

二九日御入同年八月七日從三位延享二乙丑年

御移徙入節御本九日御入同五戊辰年

二月廿六日於同所逝去東叡山葬鳴物十日
普請五日

三月十二日御出棺御送葬宝曆十三癸未年

四月十六日贈後一位給職於六月十八日

御法名至心院殿御別當福聚院

御部屋於遊喜方松平又八郎親春之譽女

實浪人三浦五郎左衛門娘與勤延享元己年

二月十五日於西九萬次郎君產同年

御本九日御供宝曆十庚辰年四月二九日

御供同十一年己年六月十二日薨御後落飾

安祥院殿卜号同年十二月廿三日西九下新

御屋敷移明和九年二月廿九日燒失依

清水館逗留同年十二月廿一日櫻田御用屋敷

御移又濱御殿江御移寛政元己酉年四月

六日内逝去上野普門院江葬
殿中鳴物
二三日遠慮

御法名 安祥院殿

上野普門院

竹姬君

御養女被仰出侍譜前有小故畧

田安家

宗武卿

小次郎君

德川右衛門督殿
田安中納言殿

正徳五乙未年十一月廿七日放赤坂館御誕生

御幼名小次郎殿御母公本徳院殿同六丙申年

正月廿九日御宮集紀州家老小笠原主膳宅江

御立寄享保元丙申年十月十八日御奉丸江

御入同二十酉年十一月十日御髪名同四亥年

十一月十五日御袴着同五庚子年内痘瘡

同十乙巳年七月二日二丸御入同月十一日

以附人被仰付同年九月以子習始同年

十二月十七日紅葉山江初而御集詣同年正月

朔日御手履半被遣同年八月朔日放御座間

御礼被仰上但御大刀不被差上同土丙午年正月朔日

御孟事始 享保十二未年 御學文山弓馬叙術

始同年五月五日 御具足召初同十四己酉年

九月廿七日於二九 御元服從三位中将祿

右衛門督宗武御下同日 御賄料三万俵被

遣同日 御袖番被置 御額閏九月 御守役二人

被仰付同十五庚戌年十一月十五日 被執御前髮

同十六辛亥年正月廿七日 田安御門内 御屋敷

御領同年九月廿三日 田安御屋敷 御移徙

同十七壬子年二月廿五日 田安館

公方樣初而 御成延享二九七年 十一月二日任

參議 享相同 三丙寅年九月十五日 御領拾万石

被下室 曆十二壬午年二月十二日 御屋敷燒失

同年十一月十九日 御新定 御移徙 明和五戊子年

五月十五日任 權中納言 同八辛卯年五月

廿七日 御惣髮 同年六月四日 逝去 佛年 五十七歲

葬上野 凌雲院 普請三日 鳴物七日

御法名 悠然院殿 文政元年二月十五日 官位 同三庚辰年六月五十四日

上野 凌雲院

御簾中

近衛閑自家久公ノ姫君知姫君後森姫君
号享保十八癸七年八月廿七日二九上御入
同十九甲寅年六月十三日御縁組同二十九卯年
八月廿八日御結納同年十二月十八日田安
御屋形上御入樂元文四己未年六月十四日
改名通姫君同五庚申年四月十九日御袖番
明和八年卯年 宗武御代逝去 後落
法蓮院殿下号 天明六丙午年正月十二日
逝去 清年 六十六歳 上野凌雲院葬 鳴物三日 信上
法蓮院殿

上野 凌雲院

源三君 御法名 法蓮院殿

享保四己亥年 三月十四日 於御本丸御誕生

御母公 深心院殿 同年五月六日 逝去 上野

凌雲院葬 鳴物 三日 同八月 御出棺 御送葬

御法名 涼地院殿

上野 凌雲院

一橋家

宗尹 卿

小五郎君 一橋権中納言

徳川 刑部卿

享保六年閏七月十六日於御奉丸

御誕生御幼名小五郎殿御母公深心院殿

同七壬寅年五月廿三日山王御宮集若年寄

大久保長門守宅御立寄同八癸卯年十一月

十五日御髮墨同十二己年十一月五日御袴着

初同十五庚戌年正月朔日年始侍禮當年

御盃事有之十歲享保十六辛亥年八月朔日

於御座間御太刀目錄を以御礼十歲同

十八癸丑年五月五日御具足召初同二十卯年

九月朔日御守衆被為附同月廿三日御元服

從三位中將稱德川刑部卿宗尹卿卜同日

御賄料三万俵被進同年十月十音紅葉山

御宮初而御集詣元文元丙辰年十一月十五日

被為執御前髮同年十二月廿一日御疤痕

同二十己年十月十八日賜一万俵同五庚申年

十一月十八日於一橋内御屋敷御拜領寛保

元辛酉年十一月廿五日右御屋敷御移徙

同二十戌年二月廿二日初而

公方様御成三月十二日初而

右大將様被為成延享二乙丑年十一月二日

參議任同三丙寅年九月廿五日御賄料

拾万石同四十卯年正月朔日御屋敷燒失

同年八月二日普請出来御移造明知元甲申年

十二月廿二日旅同所内逝去御年四十四歲上野

凌雲院上野普請三日鳴物七日同七庚寅年九月廿三日

宗武卿内願依之贈權中納言

御法名覺了院殿

御簾中上野凌雲院

水戶隨性院殿御養女實只一條関白兼香公

姫君俊姫寛保元年辛酉年六月廿三日

御縁組同二壬戌年十一月十九日御結納同月

廿五日駒込御守殿之一橋館御婚姻同

三癸亥年三月十三日御袖番御着帶寛延

二己巳年七月十二日御逝去上野凌雲院葬

御法名 深遠院殿

上野 凌雲院

芳姫君

享保六辛巳年九月六日於御奉丸内誕生

内母公覺樹院殿 同七壬寅年十一月六日

御逝去 鳴物斗 三日停止 小石川傳通院葬

御法名 正雲院殿

利根姫君 御奉丸内誕生 小石川傳通院

寶 紀伊中納言宗五郎息女享保二丁酉年

利根姫君

八月朔日内誕生 称峯姫同二十乙卯年四月

廿三日御養女被御出即日御奉丸御入

同月廿七日松平陸奥守嫡子松平越前守宗村

御縁組同年十月廿八日新錢座

御入與同年十二月朔日初而御奉丸御入

元文二丁巳年閏十一月十五日 御実名称經子

延享二乙丑年閏十二月十六日御逝去 御年 二十九

鳴物 七日停止 奥州 大平寺

御法名 雲松院殿

奥州 大平寺

奥州 大平寺

... 漢六... 七年九月... ...

補遺

... 華 興州 太平寺

... 子 平 閏 十一月 十六日

... 十一月 十五日

... 閏 十一月 十五日

... 閏 十一月 十五日

... 閏 十一月 十五日

